

はじめに



一般財団法人全日本ろうあ連盟
理事長 石野 富志三郎

本書「情報アクセシビリティ・フォーラム 2015 事業報告書」は、12月12日～13日まで、東京・秋葉原にて開催された「情報アクセシビリティ・フォーラム 2015」の実施内容をまとめたものです。

本フォーラム開催にあたっては、官公庁をはじめ多くの団体のご後援及びご協力と、「公益財団法人日本財団」のご助成、そして多くの関係者の皆様より多大なるご支援を頂きましたことを、心より御礼を申し上げます。

本フォーラムは2年ぶりの開催にもかかわらず、2日間で約10,000人の方々にご来場を頂くことができ、また、12日の式典および各企画に秋篠宮妃殿下および佳子内親王殿下のお成りや安倍昭恵首相夫人・各省政務官のご臨席をいただき、私たちの取り組みが大きく報道に取り上げられ、「情報アクセシビリティ」という言葉を広く一般の方々に届けることができました。

さらに、中央、地方の行政・議会関係者にも本フォーラムの諸企画にご協力いただく中で「手話言語法」「情報・コミュニケーション法」の法制定に向けて一歩前進することが出来たと考えております。これらの成功は皆様のお力添えあつてのことです。改めて深くお礼を申し上げます。

情報へのアクセス手段は、近年大きな技術的進歩を遂げ、様々な方法が開発されています。しかし、その多岐にわたるアクセス手段は、まだまだ聴覚障害者にも一般の社会にも十分に周知されていないのが現状です。

限られた人のみが情報アクセスの恩恵を受けるのではなく、すべての人が情報を本人の望む形で受け取ることができるよう、誰もが等しく情報にアクセスできる社会を目指して、私たちはこれからも「情報アクセシビリティ」の普及啓発に取り組んで行く所存です。今後ともご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

目次

| | |
|-------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 目次 | 2 |
| 1. 開催要項 | 3 |
| 2. 実施内容 | 4 |
| 2. 1 企画スケジュール | 4 |
| 2. 2 参加者人数 | 5 |
| 2. 3 会場レイアウト | 5 |
| 3. 感じるフロア | 6 |
| 3. 1 企業展示 | 9 |
| 3. 2 啓発コーナー | 15 |
| 3. 3 お国自慢コーナー／書籍販売コーナー | 26 |
| 3. 4 ミニステージ | 28 |
| 4. 学ぶフロア | 29 |
| 4. 1 学ぶフロアの目的と成果 | 29 |
| 4. 2 学ぶフロアにおける情報アクセシビリティへの取組み | 29 |
| 4. 3 ワークショップ | 32 |
| 4. 4 カンファレンス | 38 |
| 5. 式典・特別講演・ご視察 | 48 |
| 5. 1 式典 | 48 |
| 5. 2 特別講演 | 51 |
| 5. 3 感じるフロア・学ぶフロアご視察 | 51 |
| 6. 運営体制 | 53 |
| (1) 実行委員会 | 53 |
| (2) 準備室 | 53 |
| (3) 要員 | 54 |
| (4) 情報保障 | 55 |
| (5) 広報 | 57 |
| 7. 広報記事（新聞・テレビ・雑誌等） | 61 |
| 8. 成果と課題、そしてこれから | 63 |

1. 情報アクセシビリティ・フォーラム 2015 開催要項

- (1) 企画趣旨 国連・障害者権利条約にある「アクセシビリティ」という言葉は、新しく、一般にはなじみの薄い言葉ですが、これまでの「情報にアクセスする」という考えに加え、「誰でも情報にアクセスしやすい」ことが重要になります。単に情報にアクセスできればいいのではなく、必要な情報をより簡単により便利に入手できることが大切です。

私たち聴覚障害者にとって「情報へのアクセス」は自らの社会参加を左右するだけでなく、時には命をも左右するものです。情報をわかりやすく・容易に入手できる社会を目指し、情報アクセシビリティ・フォーラム2015を開催します。

- (2) 主催 一般財団法人全日本ろうあ連盟
(3) 助成・後援等

助成

公益財団法人日本財団

特別協力

国立大学法人筑波技術大学

特別協賛 (順不同)

鳥取県/石狩市(北海道)/郡山市(福島県)/加東市(兵庫県)/篠山市(兵庫県)/松阪市(三重県)/嬉野市(佐賀県)

後援 (順不同)

内閣府/総務省/外務省/文部科学省/厚生労働省/経済産業省/国土交通省/群馬県/東京都/神奈川県/徳島県/萩市(山口県)/新得町(北海道)/鹿追町(北海道)/全国知事会/全国市長会/全国都道府県議会議長会/公益財団法人共用品推進機構/公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団/一般社団法人日本経済団体連合会/日本商工会議所/全国中小企業団体中央会/中小企業家同友会/全国協議会/一般財団法人日本 I T U 協会/一般社団法人国立大学協会/一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会/一般社団法人情報通信技術委員会/一般社団法人電子情報技術産業協会/一般社団法人電気通信事業者協会/日本放送協会/一般社団法人日本民間放送連盟/全国字幕放送普及推進協議会/字幕付きCM普及推進協議会/社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団/社会福祉法人読売光と愛の事業団/公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団/公益財団法人テクノエイド協会/一般社団法人日本補聴器工業会/一般社団法人日本補聴器販売店協会/一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会/一般社団法人映画産業団体連合会/公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

協賛 (順不同)

パイオニア株式会社/住友商事株式会社/電通ダイバーシティ・ラボ/グーグル株式会社

協力 (順不同)

一般社団法人全国手話通訳問題研究会/一般社団法人日本手話通訳士協会/社会福祉法人全国手話研修センター/認定NPO法人CS障害者放送統一機構/NPO法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会/全日本ろう学生懇談会/一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会/社会福祉法人全国盲ろう者協会/NPO法人全国要約筆記問題研究会/日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク/日本障害フォーラム/社会福祉法人日本身体障害者団体連合会/社会福祉法人日本盲人会連合/全国手をつなぐ育成会連合会/特定非営利活動法人日本障害者協議会/社会福祉法人全国社会福祉協議会/公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会/株式会社講談社

- (4) 日時

2015年12月12日(土) 10:00~18:00

2015年12月13日(日) 10:00~16:00

- (5) 場所

東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX (アキバ・スクエア、UDXギャラリー)

東京都千代田区外神田1-18-13 ダイビル (秋葉原コンベンションホール)

- (6) 入場料

無料

2. 実施内容

2. 1 企画スケジュール

| 学ぶフロア(※略称 WS: ワークショップ S: シンポジウム C: コーディネーター PD: パネルディスカッション) | | 感じるフロア | | |
|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| ワークショップ UDXギャラリー (UDXビル4階) | | カンファレンス 秋葉原コンベンションホール (ダイヤビル2階) | | |
| 月日 | 時間 | 「みんなで考えよう情報アクセシビリティ」 定員150名 事前申込方式 | 「みんなで感じよう情報アクセシビリティ」 入退出自由 | |
| 12月 12日 (土) | 10:00 | 10:00-11:00 式典 | S1: 情報アクセシビリティへの挑戦 C: 佐川賢 (産業技術総合研究所) 報告・PD: 森川美和 (共用品推進機構) 製品の情報アクセシビリティ 澤田大輔 (交通エコモ財団) 交通の情報アクセシビリティ 松森果林 (ユニバーサルデザインアドバイザー) テレビCMにも字幕を! 佐川賢(産業技術総合研究所) 人間工学からのアクセシビリティ | 企業展示 啓発コーナー お国自慢コーナー/書籍販売コーナー ミニステージ |
| | 10:30 | | | |
| | 11:00 | 11:10-12:00 特別講演 日本財団理事長 尾形武善 | | |
| | 11:30 | | | |
| | 12:00 | 12:30 | | |
| | 12:30 | | | |
| | 13:00 | S2: 私たち当事者団体のチャレンジ C: 小中栄一 (全日本ろうあ連盟副理事長) 基調講演: 全日本ろうあ連盟理事長 石野富志三郎 PD: 石野富志三郎 (全日本ろうあ連盟理事長) 新谷友長(全日本聴覚者・中途失聴者団体連合会理事長) 鈴木孝幸(日本盲人会連合副会長) 福島智(全国盲ろう者協会理事) | | |
| | 13:30 | WS1: 働きやすい職場づくり C: 永井紀世彦 (埼玉聴覚障害者福祉会) <労働場面のアクセシビリティ> | | |
| | 14:00 | | | |
| | 14:30 | | | |
| 15:00 | | | | |
| 15:30 | S3: 障害者スポーツのチャレンジ C: 及川力 (筑波技術大学) 記念講演: 鳥原光憲(日本障がい者スポーツ協会会長) 「障害者スポーツの現状、今後の展望」 PD: 河合純一 パラリンピアン 水泳 竹島真美 デフリンピアン 卓球 太田康介 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員長 川上雅史 オリンピアン ボクシング | | | |
| 16:00 | WS2: 手で創るアート(1) C: 早瀬憲太郎 (早瀬塾経営・映像作家) 講師: 庄嶋雄志 小泉文子 <聞こえない世界・手話のアクセシビリティ> ・鳥取県学校のパフォーマンス ・手話表現のレッスン・発表 | | | |
| 16:30 | | | | |
| 17:00 | | | | |
| 17:30 | | | | |
| 12月 13日 (日) | 10:00 | WS3: 誰にでもすぐに電話できる環境づくり C: 井上正之 (筑波技術大学) <電話へのアクセシビリティ> MCナテ: 伊藤芳浩 (NPO法人「アクト」代表理事) 高岡正 (全日本聴覚者・中途失聴者団体連合会) | S4: 企業のチャレンジ C: 石原保志 (筑波技術大学) PD: 遠藤和夫 (日本経済団体連合会労働政策本部統括主幹) 小林悠 (全中小企業団体中央会労働政策本部長) 小林武弘 (NPO法人「アクト」代表理事) 岩山誠 (元ハローワーク職員) | 企業展示 啓発コーナー お国自慢コーナー/書籍販売コーナー ミニステージ |
| | 10:30 | | | |
| | 11:00 | | | |
| | 11:30 | | | |
| | 12:00 | | | |
| | 12:30 | S5: 自治体のチャレンジ C: 長谷川芳弘 (全日本ろうあ連盟副理事長) 講演: 「情報アクセシビリティ社会へ～鳥取県手話言語条例の挑戦」 鳥取県知事 平井伸治氏 PD: 石符市長 田岡克介氏、明石市長 泉房穂氏、 郡山市長 沼川麗聖氏、新得町長 浜田正利氏 加東市長 安田正義氏、岩手市長 宮本泰介氏 | | |
| | 13:00 | WS4: 手で創るアート(2) C: 早瀬憲太郎 (早瀬塾経営・映像作家) <音楽へのアクセシビリティ> ・奈良ろう学校のパフォーマンス ・HANDS IGNのパフォーマンス ・手話パフォーマンスのレッスン | | |
| | 13:30 | | | |
| | 14:00 | | | |
| | 14:30 | | | |
| 15:00 | WS5: みんなで開く大学の授業づくり C: 吉川あゆみ (関東聴覚障害者学生 レポートセンター) <高等教育機関のアクセシビリティ> MCナテ: 白澤麻弓 (筑波技術大学) 協力: 関東聴覚障害者学生レポートセンター | S6: 国のチャレンジ C: 岩崎信幸 (全国手話研修センター理事長) PD: 時末大輝 (厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室情報支援専門官) 後藤芳一 (日本福祉大学名誉教授、東京大学教授) 田門浩 (弁護士・内閣府障害者差別解消支援地域 協議会の在り方検討会構成員) | | |
| 15:30 | | | | |
| 16:00 | | | | |
| 16:30 | | | | |

2. 2 参加者数

2日間 延べ 9,743 名

(単位：人)

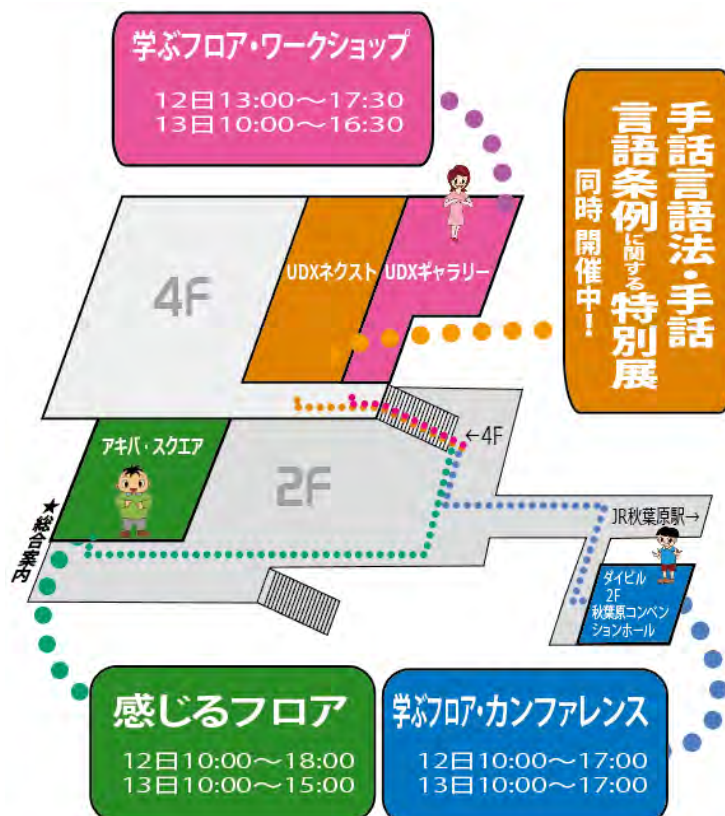
| | 12日 | 13日 | 総数 |
|---------------|-------|-------|--------------|
| 感じるフロア | 2,751 | 3,992 | 6,743 |
| 学ぶフロア・ワークショップ | 136 | 450 | 586 |
| 学ぶフロア・カンファレンス | 673 | 755 | 1,428 |
| 式典・特別講演 | 120 | 0 | 120 |
| マスコミ・関係者 | 431 | 435 | 866 |
| | 4,111 | 5,632 | 9,743 |

2. 3 会場レイアウト

下記3会場に分散して、各企画を行いました。

- ・感じるフロア会場
秋葉原UDX アキバ・スクエア 東京都千代田区外神田 4-14-1
- ・学ぶフロア・ワークショップ会場
秋葉原UDX UDXギャラリー 東京都千代田区外神田 4-14-1
- ・学ぶフロア・カンファレンス会場
ダイビル 秋葉原コンベンションホール 東京都千代田区外神田 1-18-13

なお、フォーラム開催と同時に、UDXネクストで「手話言語法・手話言語条例に関する特別展」を開催しました。



3. 感じるフロア ～みんなで感じよう情報アクセシビリティ～

最新の情報機器の展示やサービスの紹介などを通じ、情報アクセシビリティが配慮された生活・社会を感じてもらうことをテーマに、以下の概要で実施しました。

場所：秋葉原UDX（アキバ・スクエア）

日時：2015年12月12日（土）10:00～18:00

2015年12月13日（日）10:00～15:00

基本方針：

①情報アクセシビリティに配慮した展示を目指しました。

- ・「より多くの人に参加しやすい展示会ガイド」は共用品推進機構のホームページからダウンロードすることができます。

http://www.kyoyohin.org/03_download/0302_guidelines.php#tenjikai

②安全・安心に配慮した展示を目指しました。

- ・避難通路は見やすいように表示、避難しやすくし、十分な広さを確保し、段差をなくし、障害物の撤去や排除、などに配慮して設営しました。
- ・聴覚障害者用に、地震や火災などの災害の発生が、正しく、迅速に伝わる報知システムを工夫しました。
- ・地震などが発生しても物が落ちてきたり、崩れたりしないような展示をしました。

③環境（3R）に配慮した展示を目指しました。

- ・Reduce：物を大切に使い、ゴミは出さないようにします。
※例えば、配布物などは最小限にし、ゴミは持ち帰っていただきます。
- ・Reuse：使える物は繰り返し使います。
※例えば、表示看板やユニフォームなどもレンタルや既存のものを活用します。
- ・Recycle：ゴミが出たら正しく分別し、ゴミから再生されたものを活用します。
※例えば、省エネルギー製品やリサイクル商品（グリーン）などを購入・活用します。

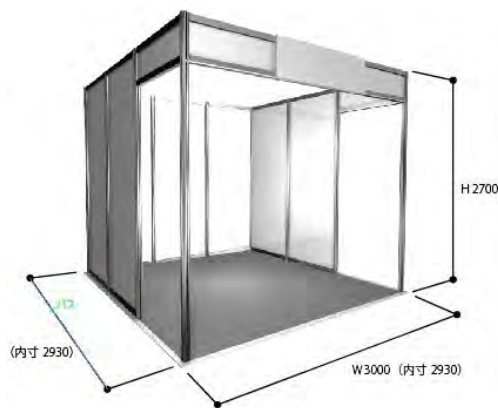
④主催者や出展者、来場者だけでなく、会場近隣の方達とも「情報アクセシビリティ・フォーラム2015」の開催目的や意義などを共有することを目指しました。

- ・例えば、会場の最寄駅である秋葉原駅や末広町駅には、「情報アクセシビリティ・フォーラム」の開催場所、日時、目的などを事前に説明し、来場者の円滑な案内や誘導の協力を依頼しました。
- ・例えば、会場のあるUDXの中にあるレストランなどには、聴覚障害者が来店した時の円滑な対応を依頼しました。

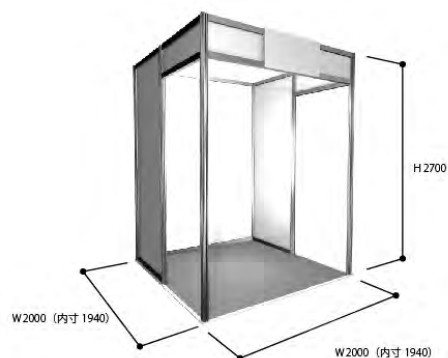
＜出展ブース＞ A、B、Cの3種類のブースとしました。

■種類

- ①Aブース ・サイズ：3 m×3 m×2.7m
- ②Bブース ・サイズ：2 m×2 m×2.7m
- ③Cブース ・※長テーブル（1.8m×0.45m×0.7m）



【 Aブースのイメージ 】



【 Bブースのイメージ 】

■基礎小間の仕様（A・Bブース共通、Cブースを除く）

- ・後壁／側壁：システムパネル仕様、白ビニール仕上げ
- ・出展者名表示サイン：黒色で統一文字 ※ロゴは不可
- ・床面：パンチカーペット貼り
- ・電気：2口コンセント（1 Kw）※コンセント工事を含む

＜主要スケジュール＞

- 準備期間 ・出展申込締切：8月31日（月）
・出展者説明会：9月25日（金）
- 搬入／施工 ・12月11日（金）15：00～20：00
- 撤去／搬出 ・12月13日（日）15：00～18：00

＜構成＞ 4つのコーナーで会場を構成しました。

①企業展示：情報・放送・映像コーナー

聴覚障害者の生活向上に寄与する情報アクセシビリティにかかわる最新機器・技術・サービスなどを展示・紹介するコーナーで、企業、団体、自治体に出展いただきました。

②啓発展示：啓発コーナー

聴覚障害者の情報アクセシビリティや、連盟や関係団体などの活動内容を、パネル展の形式で紹介しました。

③お国自慢コーナー・書籍販売コーナー

連盟の加盟団体が地元で独自に販売しているグッズや聴覚障害者、手話関連の書籍類を多数揃えて販売しました。

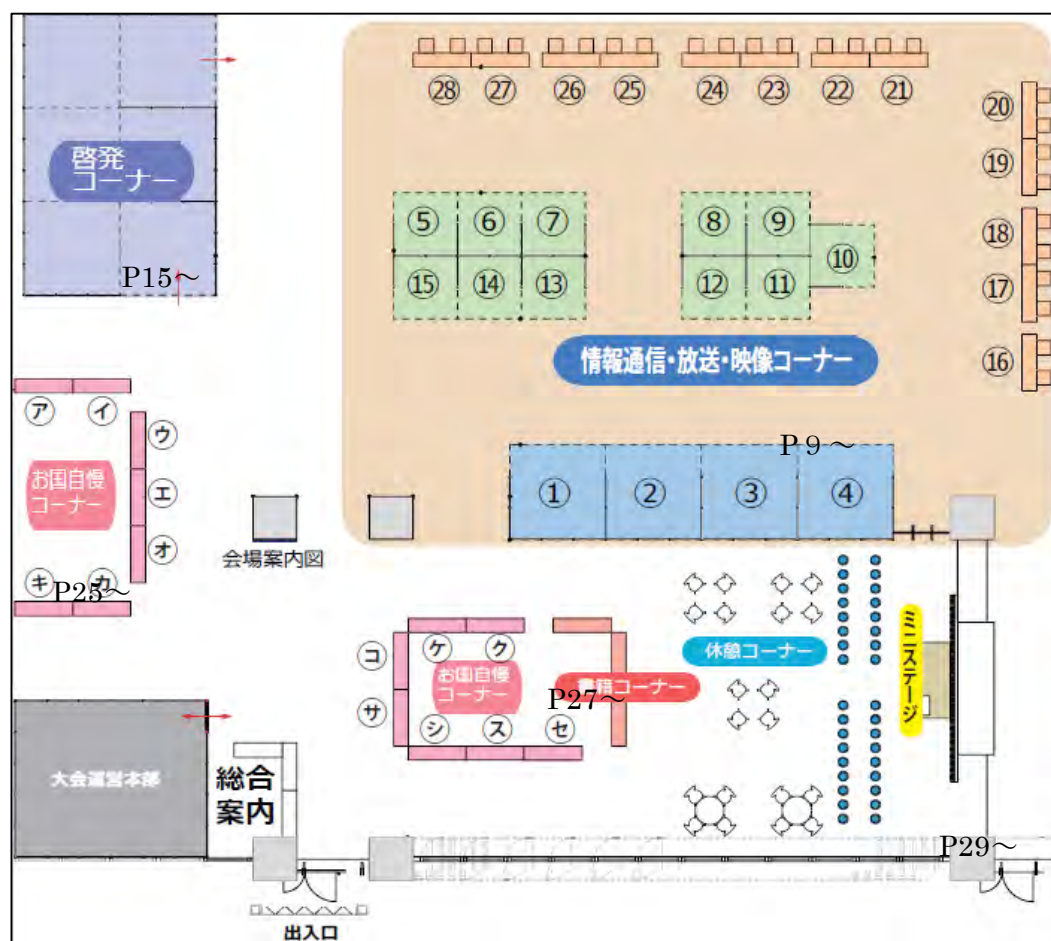
④ミニステージ

「情報・放送・映像コーナー」の企業や団体の皆様による出展内容の紹介や、公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟によるミニ手話講座、多くの映像作品を手がけた社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会の発表など、多彩なプログラムを用意しました。

また、ミニステージ前には観覧席（イス席）とともに休憩コーナー（イスとテーブル席）を設置し、誰もが気軽にプログラムに参加できるようにしました。

<会場レイアウト>

会場は3方向がガラス面であることなどを考慮し、レイアウトを工夫しました。



<出展者一覧>

■企業展示：情報・放送・映像コーナー（28社、団体、敬称略）

- ①鳥取県 ②国立大学法人筑波技術大学 ③公益財団法人日本財団 ④株式会社プラスヴォイス／シャムロック・レコード株式会社 ⑤石狩市（北海道） ⑥NPO法人安心安全ネットワークきずな ⑦国立研究開発法人情報通信研究機構 先進的音声翻訳研究開発推進センター ⑧NHK放送技術研究所 ⑨株式会社ケイ・シー・シー ⑩KDDI株式会社 ⑪株式会社アイセック・ジャパン ⑫株式会社富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ ⑬株式会社東京信友 ⑭ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社 ⑮株式会社自立コム ⑯情報通信アクセス協議会 ⑰株式会社第一生命経済研究所 ⑱公益財団法人ダスキン愛の

輪基金 ⑲ダブル・ピー株式会社 ⑳株式会社エクシオテック ㉑Palabra株式会社 ㉒特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク ㉓社会福祉法人全国盲ろう者協会 ㉔認定 NPO 法人CS障害者放送統一機構 ㉕社会福祉法人全国手話研修センター ㉖一般社団法人日本手話通訳士協会 ㉗一般社団法人全国手話通訳問題研究会 ㉘社会福祉法人日本聴導犬協会

■啓発展示：啓発コーナー

・一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会、青年部 ・聴覚障害者災害救援中央本部 ・聴覚障害者制度改革推進中央本部 ・関東ろう連盟 ・公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟

■お国自慢コーナー／書籍販売コーナー

㊶一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会 ㊷社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会 ㊸公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟 ㊹公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟（聴覚障害者切手クラブ） ㊺公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟（世田谷区聴覚障害者協会） ㊻公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟（東京手話通訳等派遣センター） ㊼神奈川県聴覚障害者連盟 ㊽一般社団法人愛知県聴覚障害者協会 ㊾一般社団法人三重県聴覚障害者協会 ㊿一般社団法人京都府聴覚障害者協会 ㊽㉑公益社団法人大阪聴力障害者協会 ㊽㉒公益社団法人大阪聴力障害者協会（千里福祉情報センター） ㊽㉓公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会 ㊽㉔公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

■ミニステージ

・公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟
 ・社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会・鳥取県・国立大学法人筑波技術大学
 ・公益財団法人日本財団・株式会社プラスヴォイス/シャムロック・レコード株式会社

3. 1 企業展示

| | | | |
|-----------------------------------------|-----|-------|---|
| 出展者名 | 鳥取県 | | |
| ブースの種類 | A | ブース番号 | ① |
| 《出展内容》 | | | |
| 鳥取県手話言語条例の紹介、手話を始めとする障害者に関する鳥取県の取り組みの紹介 | | | |

| | | | |
|-----------------|--------------|-------|---|
| 出展者名 | 国立大学法人筑波技術大学 | | |
| ブースの種類 | A | ブース番号 | ② |
| 《出展内容》 | | | |
| 国立大学法人筑波技術大学の紹介 | | | |

| | | | |
|--------------|------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益財団法人日本財団 | | |
| ブースの種類 | A | ブース番号 | ③ |
| 《出展内容》 | | | |
| 電話リレーサービスの紹介 | | | |

| | | | |
|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-------|---|
| 出展者名 | 株式会社プラスヴォイス／シャムロック・レコード株式会社 | | |
| ブースの種類 | A | ブース番号 | ④ |
| 《出展内容》 | | | |
| 電話リレーサービス・遠隔手話通訳サービス・コミュニケーションアプリ (UDトーク、UD手書き、手書き電話UD) の紹介、チラシ配布 | | | |

| | | | |
|----------------------------------|----------|-------|---|
| 出展者名 | 石狩市（北海道） | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑤ |
| 《出展内容》 | | | |
| 石狩市手話基本条例誕生後の石狩市の様子のビデオ配信、石狩市のPR | | | |

| | | | |
|----------------|--------------------|-------|---|
| 出展者名 | NPO法人安心安全ネットワークきずな | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑥ |
| 《出展内容》 | | | |
| 聴覚障害者用タブレットの紹介 | | | |

| | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-------|---|
| 出展者名 | 国立研究開発法人情報通信研究機構 先進的音声翻訳研究開発推進センター | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑦ |
| 《出展内容》 | | | |
| スマートフォン・タブレット端末用のアプリケーション「こえとら」 「SpeechCanvas（スピーチキャンバス）」のパネル展示・ ネット動画による紹介・デモ機器によるアプリ体験、チラシ配布 | | | |

| | | | |
|---------------------------|------------|-------|---|
| 出展者名 | NHK放送技術研究所 | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑧ |
| 《出展内容》 | | | |
| CGアニメーションによる手話映像制作技術の実演展示 | | | |

| | | | |
|--------------------------------|--------------|-------|---|
| 出展者名 | 株式会社ケイ・シー・シー | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑨ |
| 《出展内容》 | | | |
| 実機によるスマートデバイス動画辞典「Smart Deaf」の | | | |
| デモンストレーション、アンケート実施、チラシ配布 | | | |

| | | | |
|-------------------------------------|----------|-------|---|
| 出展者名 | KDDI株式会社 | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑩ |
| 《出展内容》 | | | |
| スマートフォンの紹介・デモ、防災マニュアルの配布、アプリの紹介・デモ、 | | | |
| 店舗紹介 | | | |

| | | | |
|---------------------------------------|----------------|-------|---|
| 出展者名 | 株式会社アイセック・ジャパン | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑪ |
| 《出展内容》 | | | |
| モバイル型情報保障サービス（e-ミミ）・字幕電話・電話リレーサービスの紹介 | | | |

| | | | |
|-------------------------------|------------------------|-------|---|
| 出展者名 | 株式会社富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑫ |
| 《出展内容》 | | | |
| FUJITSU Software LiveTalk の展示 | | | |

| | | | |
|-----------------------|----------|-------|---|
| 出展者名 | 株式会社東京信友 | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑬ |
| 《出展内容》 | | | |
| 聴覚障害者用屋内信号装置、火災警報器の展示 | | | |

| | | | |
|------------------------------------------|---------------------|-------|---|
| 出展者名 | ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社 | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑭ |
| 《出展内容》 | | | |
| 難聴者向け対話支援システム（スピーカー）「comuoon（コミュニケーション）」 | | | |
| シリーズの展示・体験、カタログ・資料の配布 | | | |

| | | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------|---|
| 出展者名 | 株式会社自立コム | | |
| ブースの種類 | B | ブース番号 | ⑮ |
| 《出展内容》 | | | |
| 室内信号装置（ベルマンビジットシステム）、振動式目覚まし時計各種（ビブラ、ソニックシェーカなど）、無線式双方向呼び出し装置（ツーウェイウィンプル）、携帯電話着信通報装置（ライトオン、セルフォンリング）の展示・商品説明・販売チラシ配布 | | | |

| | | | |
|-------------------------------------------------------|-------------|-------|---|
| 出展者名 | 情報通信アクセス協議会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ⑯ |
| 《出展内容》 | | | |
| 協議会活動紹介（パネル展示）、タブレットによる通信・ウェブに関するアクセシビリティの紹介、パンフレット配布 | | | |

| | | | |
|-------------------------|---------------|-------|---|
| 出展者名 | 株式会社第一生命経済研究所 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ⑰ |
| 《出展内容》 | | | |
| 研究調査事業の紹介、資料の配布、アンケート実施 | | | |

| | | | |
|----------------|------------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益財団法人ダスキンの愛の輪基金 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ⑱ |
| 《出展内容》 | | | |
| パネル展示、パンフレット配布 | | | |

| | | | |
|-------------------------------------|------------|-------|---|
| 出展者名 | ダブル・ピー株式会社 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ⑲ |
| 《出展内容》 | | | |
| 手話関連DVD・グッズ・書籍の販売、手話教室「手話寺子屋」のチラシ配布 | | | |

| | | | |
|---------------------------|-------------|-------|---|
| 出展者名 | 株式会社エクシオテック | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ⑳ |
| 《出展内容》 | | | |
| 聴覚障害者向け緊急情報システムのデモ、カタログ配布 | | | |

| | | | |
|--------------------------------------------|--------------|-------|---|
| 出展者名 | Palabra 株式会社 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ㉑ |
| 《出展内容》 | | | |
| UDCast（スマホ専用のアプリを利用した言語バリアフリー化）のデモ展示、チラシ配布 | | | |

| | | | |
|---------------------------------|-------------------------------|-------|----|
| 出展者名 | 特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ②② |
| 《出展内容》 | | | |
| 観劇サポートに関する啓発・情報提供、チラシ（リーフレット）配布 | | | |
| 芸術文化分野での支援事業についての説明・相談受付 | | | |

| | | | |
|----------------------------|----------------|-------|----|
| 出展者名 | 社会福祉法人全国盲ろう者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ②③ |
| 《出展内容》 | | | |
| 盲ろう者についての啓発ポスター、パンフレット等の配布 | | | |

| | | | |
|---------------------------|--------------------|-------|----|
| 出展者名 | 認定NPO法人CS障害者放送統一機構 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ②④ |
| 《出展内容》 | | | |
| アイドラゴン・目で聞くテレビ・IPTVの展示・紹介 | | | |

| | | | |
|-----------------------------------|------------------|-------|----|
| 出展者名 | 社会福祉法人全国手話研修センター | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ②⑤ |
| 《出展内容》 | | | |
| 研修センター軌跡パネルの展示、パンフレット配布、研修センター後援会 | | | |
| 申込受付 | | | |

| | | | |
|-----------|-----------------|-------|----|
| 出展者名 | 一般社団法人日本手話通訳士協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ②⑥ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍・DVD等販売 | | | |

| | | | |
|---------------|-------------------|-------|----|
| 出展者名 | 一般社団法人全国手話通訳問題研究会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ②⑦ |
| 《出展内容》 | | | |
| 団体紹介パンフレットの配布 | | | |

| | | | |
|---------------------------------------|---------------|-------|----|
| 出展者名 | 社会福祉法人日本聴導犬協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース番号 | ②⑧ |
| 《出展内容》 | | | |
| 聴導犬PR、三つ折りリーフレットなど協会関連資料紹介、新聞（チラシ含む）、 | | | |
| 書籍紹介、アンケート実施 | | | |



使用人気ランキング

第1位 第2位 第3位
第4位 第5位

これまでダウンロードされた中で、使用頻度の高いスタンプは選ばれました。お馴染みのスタンプでも、手紙を知らないと使えないスタンプであることが使用目的が伸びる要因の一つでしょう。

使用国

世界各所でダウンロードされています。

～ダウンロードしてくれた国～
日本・韓国・韓国・中国・インドネシア・タイ・台湾・マカオ・ロシア・フィリピン・シンガポール・アメリカ・カナダ・ペルー・ブラジル・スウェーデン・フランス・ドイツ・イタリア・オーストラリア・ウクライナ・サウジアラビア

展開例

LINEスタンプイメージは、スタンプだけでなく、わたしたちの活動を広く知ってもらうために、グッズなどにも展開しています。特にクリアファイルは人気で、それぞれのスタンプがプリントされているので、手紙を差す時にも役立っています。

また、ほかにも、2014年の第2015夏の陣において、「うらら日本手紙番付」の順位も高いLINEを使わないユーザーにもうらら日本手紙番付の普及を促しています。手紙番付発表見聞録数は、99.8% (100%達成まで残り4! 2015/10/19現在)。

また、2015年10月に鳥取県にて日本初の手紙番付金型を成立・施行されたのを皮切りに、22自治体において手紙番付金型が決定されました。(2015/10/19現在)

J-POYS

(4) 関東ろう連盟

関東ろう連盟

1948 - 2018

関東ろう運動 60年のあゆみ

販売額 2000円

関東ろう連盟の組織図と活動の歴史を示すポスター。左側には「関東ろう連盟」のロゴと「1948-2018」の年表があり、右側には「関東ろう運動 60年のあゆみ」のポスターが掲載されている。ポスターには「販売額 2000円」と記載されている。下部には「山梨県」の組織図が示されている。

i3 板橋区障害者福祉センター 緑の会 一般社団法人 群馬県障害者協会 一般社団法人 埼玉県障害者協会

茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県

山梨県

全日本各連連連結成人会ポスター (A1サイズ) 販売額 1000円

このポスターは、関東各都府県の障害者協会や福祉センターのロゴと組織図を掲載している。下部には「全日本各連連連結成人会ポスター (A1サイズ) 販売額 1000円」と記載されている。

(5) 公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟

社団法人東京都聴覚障害者連盟沿革 (関係組織、施設設立含む)

明治4年 工学期の山田熊三(写真)が盲聾学校設立(山響(建白書)を機軸)

明治8年 大河次郎が京都にて盲聾教育開始(行質小学校に聾児学級開設)

明治11年5月 京師聾立盲聾院開設(生才17名、聾児生31名)

明治13年1月 東京で有志会「知音院(のちに知音聴院)」開設

明治29年 「東京盲聾同窓会」結成(日本初の聾児団体、名誉総長に山田熊三)

明治41年10月 盲聾教育協議会が東京で発起(日本最初の聾聾者人会)

大正2年 東京聾聾学校出身者による「東京聾聾クラブ」発足

大正4年11月28日 「日本聾聾協会」結成と同時に東京支店結成

大正15年4月 日本聾聾協会第一回大会総会を東京聾聾学校にて開催(戦乱により活動休止)

昭和22年5月25日 「全日本聾聾連盟」(香保保にて発足(写真))

11月10日 東京ろう学校同窓会連合結成、名称「東京口話クラブ」

昭和23年1月3日 東京口話クラブを基盤に「全東京聾聾協会」結成

9月23日 全日本聾聾連盟東京支部が「東京聾聾協会」として発足し、団体分裂

昭和26年7月8日 全東京聾聾協会と東京聾聾協会が合併し「東都ろうあ連合会」を経て「東京都ろう者協会」発足(親団体の基盤となる団体)

昭和31年 9月16日 東京都ろう者協会に一時分離した東京聾聾協会が再統合

昭和33年4月28日 新宿区早稲田に国立ろうあ者更生施設所(国立聾立言語障害センター)開設(現在は国立障害者リハビリセンターとして所収に移転)

昭和40年3月 ベル会館完成(日原区境支庁・緑工区(現6千9百4)東京都立ろう学校で授業直至(翌年の「3・3事件」後)

7月11日 社会福祉法人友愛NPO協会が東京都ろうあ者更生センター(現・東京都聴覚障害者支援センター)として発足

9月19日 ろうあ者2名が上野の発音指導で傷害致死事件(発音指導事件(写真))

11月21日 「東京都聴覚障害者協会」分離結成

昭和42年7月9日 東京都ろうあ会館建設委員会発足

昭和43年3月3日 耳の日記念の取り組み始まる

都ろう協、耳の日記念講演会(専修大公会堂)

都聴協協、耳の日記念大会・デー(教育会館)

昭和44年9月28日 「東京都聴覚障害者団体連絡協議会」発足





昭和45年10月7日 東京都手話通訳者自覚養成事業開始(東京手まねを学友会委託)

10月31日 全連盟役員部会連日の対話集会(ろうあ会館の建設・手話通訳者の養成派遣・ベビーシッター派遣等について約束(写真))

昭和46年6月13日 東京都ろう者協会と東京都聴覚障害者協会の統合が進められ、離反したメンバーが集まり「全東京都ろう者連盟」を結成

昭和47年8月7日 東京都ろう者協会と東京都聴覚障害者協会が合併し「東京都ろう者協会」発足

昭和48年7月2日 東京都手話通訳者連盟発足(東京都手話通訳者連盟設立)

8月28日 警視庁通達により運転免許が条件付きで取得可能となる

昭和50年5月19日 東京都聾聾者福祉会(三田)オープン

昭和53年4月1日 東京都ろう者協会と全東京ろう者連盟が統合し「東京都聴覚障害者連盟」設立(都内ろう団体の完全統一なる)

事務局は豊島区大塚2丁目、全東京ろう者連盟事務所内

民法11条(準禁治産者に準ずる者)改正

昭和55年3月1日 聴覚障害者情報文化センター設立

昭和56年7月1日 事務所を新宿区新宿2-3-12グレイスビル7階に移転(東京都手話通訳者協会と共有)

11月28日 国際障害者年推進本部が12月8日を「障害者の日」として制定

ろう者文化支援施設として豊島区大塚にトット文化館(社会福祉法人トット基金)建設

4月1日 東京都より法人許可がおりる「社団法人東京都聴覚障害者連盟」設立(写真)

昭和58年 14月8日 「東京都聴覚障害者新聞」第三編纂(現物写真)

平成3年7月 第11回世界ろう者会議(東京都庁・武道館・京平プラザホテル)都庁市民の広場にて(交流の広場)を主催

8月7日 都庁関係10団体で聴覚障害者社会福祉法人設立準備会が結成される

9月30日 社会福祉法人聴覚障害者文化センター(情報提供施設)認可

11月17日 法人許可10周年記念祝賀会(五反田T.O.C.写真)

平成4年10月4日 臨時総会で大久保に事務所移入及び移転(決断)

11月2日 新宿区大久保2-1-10 ニュースター大久保9階に事務所を移転

平成5年 9月19日 アジア太平洋障害者の10年(1993~2002)国際年パブリック通信ネットワーク「トレンネット」(開局ハートビル館制定)





平成7年1月17日 阪神・淡路大震災、聴覚障害者義援金約5,000万円(都内500万円)集まる

3月4日 全国聴覚障害者ろうあ者同窓会(筑谷区)97歳で逝去(写真)、土地を寄付

4月 障害者ボランティアネットワーク・シニア年戦線へ参加

6月1日 刑法改正、第40条(障害者の行為は酌定又は軽減)が削除

8月5日 「東京都聴覚障害者自立支援センター」(仮称)、準備委員会発足

平成8年2月18日 臨時総会で開成氏所有土地の寄付受け入れ及び「保護人を決議

6月 東京都が全国に加盟しているろう者通訳・介助者派遣事業開始

平成9年1月16日 「知事と都民のろう者キャラバン」東京キャンペーン

2月14日 東京都聴覚障害者教育検討委員会設置/聴覚障害者不在

平成19年1月11日 法人許可15周年記念大会(武蔵野公会堂)

5月17日 インターネットホームページ開設(www.deaf.to)

7月18日 「東京都聴覚障害者自立支援センター」オープン(写真)渋谷区東1-23-3の同センター3階に主たる事務所を移転

平成11年1月 社会福祉法人聴覚障害者総合支援機構(指図から発起(写真))

7月 東京都聴覚障害教育推進構想発表(ろう学校統廃合)

平成12年4月1日 自立支援センターへ都庁コミュニケーション事業委託移管

4月1日 介護保険制度施行

12月4日 差別法改正委員会と介助者検討委員会が発起的解散、「福祉対策プロジェクト委員会」発足

平成15年2月1日 「社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会」認可

平成14年4月1日 「たましのぞ」オープン(写真)

4月1日 東京都立葛飾ろう学校閉校

4月12日 親戚連とソウル聾聾人協会と姉妹団体締結

平成15年3月 東京都聴覚障害者総合センター構想がまとまる

11月16日 法人許可20周年記念・第50回東京都聴覚障害者大会(筑谷)

10月12日 厚生労働省「今後の障害者保健福祉施策」について「改革のプラン」が発表

11月26日 「三位一体改革」の全体像を示した政府・与党合意資料

12月6日 福祉対策プロジェクト委員会を発起的解散し決定権を持つ「福祉対策会議」を設立

平成17年2月10日 グラウンドデザインの主任監理者として「障害者自立支援法策」審議委員

平成18年4月1日 障害者自立支援法施行(手話通訳者事業等14.10.1日より地域生活支援事業として実施)

4月1日 東京都2010年ろう学校閉校





12月13日 障害者権利条約が国連で採択(手話が言語として明記)

平成19年4月1日 コミュニケーション支援事業が地域(区市)に移行

平成20年1月12日 法人許可25周年祝賀会(ウエルシアピア多摩)

6月1日 道路交差点改正旅行(ワイドスター等で福祉施設をしながら聴覚障害者でも運転可能(雑誌))

平成21年8月30日 東京都聴覚障害者福祉事業協会が改組

12月8日 内閣府「障害者権利条約推進本部」設置

平成22年6月5日 「社会福祉法人ろう者連盟推進委員会」で「情報コミュニケーション法(仮称)」の設立運動を決議

7月 第21回世界ろう者教育国際会議で「ミラノ会議決議」賛同宣言

8月21日 障害者権利条約に基づく国内法の整備、新法制定をめざす法起集会(要者120万、「We Loveコミュニケーション」パンフレット等)開始(写真)

平成23年4月22日 「言語(手話を含む)」と記載された障害者基本法改正案が閣議決定

3月11日 東日本大震災、聴覚障害者も多数被災

5月29日 定期評議員会・総会で公益法人名称を採択・承認「公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構」

7月 定款及び内規案の起草完成、東京都公益法人様(以下「都」と)と相談

8月5日 障害者基本法の改正に関する法律施行

9月19日 都の指図により修正した公益法人定款案を連盟、自立センターで承認

9月25日 親戚連内規案と今後都に提出する公益法人定款案を審議、発表

9月27日 情報コミュニケーション法(仮称)案を116.5議案を国会に提出

10月2日 臨時評議員会・総会(役員改選)内規審議・承認

平成24年2月28日 高松市の手話通訳者派遣に際しての裁判提訴

4月29日 世界ろう者球連手話大会東京で開催

6月27日 障害者総合支援法閣議決定

平成25年4月1日 障害者総合支援法施行

6月2日 定期総会で公益法人定款案、役員、事業・予算案等を承認

8月 障害者差別解消法閣議決定

8月28日 公益社団法人電子申請

10月 スポーツ祭東京2013で情報提供を支援

10月30日 東京都より公益社団法人認定

11月17日 第60回東京都聴覚障害者大会・法人許可30周年記念祝賀会





一般社団法人全国手話通訳問題研究会

全通研(ぜんつうけん)は

聴覚障害者福祉と手話通訳者の社会的地位の向上を目指して
「きわめる」「たかめる」「はたらきかける」の
3つをキーワードにさまざまな活動をしています。



きわめる

わたしたちは、聴覚障害者や
手話・手話通訳問題について、
研究活動を継続します。

- ・聴覚障害者の暮らしから手話通訳の実践を通じた研究活動を行います。
- ・手話や手話通訳制度について、調査・研究を行います。
- ・多くの手話通訳者が、職業で活動している社会を目指します。

機関誌(研究誌)の発行
学習教材として書籍やDVDの発行
研究発表・学際的場として全国集会の開催
など行っています

たかめる

わたしたちは、
支部やブロックとともに
資質向上に努めます。

- ・より多くの障害者と会いえます。
- ・聴覚障害者・手話・手話通訳について、幅広い関心情報を収集し発信します。
- ・委員・支那・ブロックを通じて地域活動を進めます。
- ・手話や手話通訳に深く関与する聴覚障がい分野の学習機会を創出します。
- ・世界の手話通訳事情について情報を収集し、発信します。



はたらきかける

わたしたちは、地域の実践から見えてきた課題を
社会に問題提起するとともに、
改善に向けて取り組みます。

- ・全日本ろう連盟をはじめとする関係団体と連携して、障害者課題の解決や差別の解消に社会に働きかけます。
- ・聴覚者問題に対して構造的な手話通訳の意見を公表します。
- ・山や市町村などの公的機関をはじめ、幅広い関係機関と協働して活動します。
- ・手話通訳について社会に理解を促すために取り組みます。
- ・世界の手話通訳活動と協働します。



手話通訳者は、なにをする人?

見たことがあるのは…
舞台(講演会)
テレビのワイド

かもしれませんが

実際には、こんな場面でも…

病院の受診、学校の授業参観・三者面談、
就職面接・上司との話し合い、自治会の会合、
運転免許証の更新、警察、裁判…

さらに

場合によっては
生活の支援も!

時にはハローワーク、福祉事務所等、各種の専門機関と連携を取り合うこともあります。

しかし 手話通訳者の派遣は、

非正規雇用の手話通訳者や、多くの「登録手話通訳者」によって支えられています。
※登録手話通訳制度とは…登録試験に合格した手話通訳者(主婦や会社員など)が派遣元に登録をし、都合の合う時だけ通訳をする制度。

生活の支援は雇用された正職員の継続的な関わりが
必要不可欠です。

全通研は
聴覚障害者・手話通訳者の
直面する課題を明らかにし、
社会を変えるために
活動をしています



全通研には
47都道府県に支部があり
各地域に根付いたさまざまな
活動をしています

全通研は
手話に関心を持った、聞こえない人々の
問題を考えてみようと思ったら、
どなたでも会員になれます

一般社団法人 全国手話通訳問題研究会

JASLI 一般社団法人日本手話通訳士協会

協会について

日本手話通訳士協会は、平成元年に第一回手話通訳士試験
が実施された後、3年を経過して手話通訳士の資質及び専門の
技術の向上と、手話通訳制度に寄与することを目的として
1991(平成3)年5月4日に設立されました。

その後2009(平成21)年6月に法人格を取得しました。
手話通訳技能認定試験(手話通訳士試験)は、2015(平成
27)年で27回目となり、現在全国に3,377名の資格者が
誕生し、各地でさまざまな活動を展開しています。



協会の活動について

今まで、私たちの基本的な理念となる「手話通訳士倫理綱領」の作成を始めとし、さまざまな活動を行い社会的に評価されるべき職業集団としての確立に取り組みしてきました。参議院議員比例代表選挙の手話通訳を手話通訳士が担うことが定着し、さらには衆議院議員比例代表選挙、都道府県知事選挙の政見放送にも手話通訳が導入されています。

また、自治体などの手話通訳事業において手話通訳士を採用条件とするなど、「手話通訳士」は、社会的認知を広げてきており、同時に聴覚障害者の社会参加が進む中で、手話通訳士の役割はますます大きくなっていきます。

協会の事業



- (1) 手話通訳を必要とする人々の生活と権利の擁護に関すること
- (2) 手話通訳士の職務に関する知識及び技術の向上に関すること
- (3) 手話通訳士の倫理及び資質の向上に関すること
- (4) 手話通訳士の資格制度の充実発展並びに普及啓発に関すること
- (5) 手話通訳並びに手話通訳士に関する調査研究に関すること
- (6) 国内内外の関係団体との連携に関すること
- (7) その他目的達成のために必要なこと

さらに、公益事業の推進するため、
必要に応じて次の事業を行っています。

- (1) 手話通訳等に関する出版事業
- (2) 手話通訳養成等に係る教材制作事業
- (3) 手話通訳士養成に関する事業
- (4) 手話通訳士試験対策に関する事業
- (5) その他前号に定める事業に関連する事業



手話通訳士倫理綱領

手話通訳士倫理綱領の意義

手話通訳士が業務を遂行する際、大切な一つに「信頼」があげられます。手話通訳士倫理綱領は、単に生命や財産、人権に関わる私たちが手話通訳士の行動の基準であるだけでなく「信頼」につながるものでもあります。
この手話通訳士倫理綱領は、手話通訳の際の行動の基準とする内容であることから、資格の有無にかかわらず手話通訳に従事しているすべての人が、手話通訳の実践の中で生かされることを意図しています。



手話通訳士倫理綱領

私たち手話通訳士は、聴覚障害者の社会参加を阻む障壁を解消され、聴覚障害者の社会への完全参加と平等が実現されることを願っています。このことは私たちを含めたすべての人々の自己実現につながるものである。
私たち手話通訳士は、以上の認識に基づき、社会的に正当に評価されるべき専門職として、互いに共闘し、広く社会の人々と協同する立場から、ここに倫理綱領を定める。

- 1 手話通訳士は、すべての人々の基本的な人権を尊重し、これを擁護する。
- 2 手話通訳士は、専門的な技術と知識を駆使して、聴覚障害者が社会のあらゆる場面で主体的に参加できるように努める。
- 3 手話通訳士は、良好な状態で業務が行えることを求め、所属する機関や団体の責任者に本綱領の遵守と理解を促し、業務の改善・向上に努める。
- 4 手話通訳士は、職務上知りえた聴覚障害者及び関係者への情報を、その意に反して第三者に提供しない。
- 5 手話通訳士は、その技術と知識の向上に努める。
- 6 手話通訳士は、自らの技術や知識が人権の侵害や反社会的な目的に利用される結果とならないよう、常に検証する。
- 7 手話通訳士は、手話通訳制度の充実・発展及び手話通訳士養成について、その研究・実践に積極的に参加する。

1997(平成9)年5月4日制定

日本手話通訳学会

日本手話通訳士協会は、手話通訳士が専門職として成長するために、毎年日本手話通訳学会を開催しています。2015年度で13回目となります。本協会委員の大半は専門職である実践者です。本学会は専門職団体だからこそできない実践研究発表が中心となっており、実践に裏付けられた演題発表が毎年数多く寄せられています。



第13回日本手話通訳学会演題一覧

- 1 「米田海津33におけるコミュニケーション」演題の現状と課題
～手話通訳派遣エージェンシーの実際と焦点を当てて～
- 2 「聴覚障がい者の聴覚障害者への対応に関する調査」
- 3 「支援と支配(価値判断)～日頃の手話通訳現場から考える～」
- 4 「私たちの日常と一般常識について」
- 5 「通訳現場でどうやって救済したら
通訳者も困って通訳しなればならぬ!?」か?

一般社団法人 日本手話通訳士協会

一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

◎ **全難聴**は「きこえ」に悩む

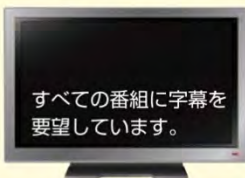
難聴者
中途失聴者 } の社会参加を**推進**しています。



耳マーク設置推進



テレビ字幕付与推進



すべての番組に字幕を
要望しています。

磁気ループ設置推進



障害者制度改革推進

日本は、身体障害者手帳の等級と福祉サービスとの連携という施策が続いてきました。

全難聴はWHOの基準に従い、41デシベルよりも聞こえの悪い人を聴覚障害者と捉えて福祉サービスを考えるべきだと訴えています。

要約筆記の普及啓発



聴覚障害者のコミュニケーション支援としての要約筆記は、手話通訳と同様に社会参加推進に欠かせない支援手段です。全難聴は全要研とともに、提言を作成し、その特性の理解と環境整備を進めています。

音声認識技術推進



一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会

音声情報バリアフリーの社会を目指して

要約筆記のシンボルマーク



「要約筆記」という文字による通訳を社会一般に認知してもらい、聴覚障害者とのコミュニケーションに配慮を求めているために作られました。

全要研の運営は、年1回の総会に基づき、理事会により行なわれています。全要研は、全国各都道府県に支部があります。

気づいていますか？
身のまわりの
音声情報のバリア



Vision

～ 私たちの目指す社会～
音声情報バリアフリー社会の実現
聞こえる人も、聞こえにくい人も安心して暮らせる社会の実現を目指します。

Mission

～ 私たちのするべきこと～
身のまわりにある「音や声のバリア」をなくすための活動を行っています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会 名古屋事務所
ADDRESS 〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目16-13 テンサマンション錦1102
TEL/FAX 052-218-9120
MAIL info@zenyouken.jp
Web http://zenyouken.jp/

活動の4つの柱

支える

要約筆記をはじめとする文字情報支援のあり方を研究し、聴覚障害者などにより音声情報を十分に得ることができない人々を支援します。テレビ番組の字幕付与、聴覚障害者福祉に関する調査研究事業にも取り組んでいます。



つながる

パートナーである一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会をはじめ、聴覚障害者団体やバリアフリーを推進する団体・企業とのつながりを深めます。また年に1回研究会、研究討論集会を開催しています。



伝える

目で見えない「音や声のバリア」によって、どのような問題が起きているのかを広く社会に発信します。ホームページによる広報や毎月の「全要研ニュース」、年1回の研究誌を発行しています。



育てる

「全国統一要約筆記者認定試験」を年に1回実施し、自治体の要約筆記者の登録要件に活用していただいています。要約筆記者養成指導者の養成・講師派遣、テキスト作成をおこなっています。



特定非営利活動法人 全要研のあゆみ

1980年 前身である「第1回全国要約筆記関係者懇談会」開催(大阪)
1983年 全国要約筆記問題研究会に改組
1995年 阪神淡路大震災が発生。全難聴とともに救援活動
2000年 厚生省カリキュラム事務局「要約筆記テキスト(基礎課程)」を全難聴と共同で作成
2003年 NPO 法人認可
2011年 東日本大震災が発生。全難聴とともに救援活動
2012年 第1回「全国統一要約筆記者認定試験」実施

要約筆記とは？

話し手の話の内容をつかみ、それを文字にして伝える。聴覚障害者のためのコミュニケーションの保障です。1960年代に考案され、現在は手話通訳と同様に福祉サービスとして行われています。

入会案内

正会員 年会費 6,000円

本会の職域および目的に賛同して活動する方を正会員としています。

賛助会員 年会費 10,000円

会の業務及び目的に賛同する方を賛助会員とすることができます。

定期購読 4,500円(全要研ニュース1年分)

年会費をお支払いの方には、入会手続後、全要研ニュースと資料をお送りします。年度途中で会員となった場合は、その月から全要研ニュースをお送りします。

入会および定期購読の手続き

年会費(または定期購読費)を下記にお振り込みください。

(郵便振替)口座番号: 00840-8-20142

加入者名: 全国要約筆記問題研究会 会計

振込用紙の通信欄に、全要研ニュースの送付先(氏名、郵便番号、住所、電話番号(あればFAX番号も))を記入してください。

特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会

社会福祉法人全国盲ろう者協会

当協会の活動内容

当協会は、視覚と聴覚に重複して障がいのある盲ろう者の福祉を目的とする日本で唯一の社会福祉法人として、1991年に設立されました。現在、日本には、約1万4千人の盲ろう者がいると推定されています。当協会では、一人でも多くの盲ろう者が自立できるように、また、自立の難しい盲ろう者も、働く喜び、仲間と語らう喜び、その他種々の喜びを味わうことができるように支援しています。

3つの困難を抱える盲ろう障害

盲ろう者は、障害の特性上、主に3つの困難(他者とのコミュニケーション、移動、情報入手)を抱えていると言われます。外出して買い物することもできなければ、テレビやラジオを楽しむこともできず、点字を知らない人は本を読むこともできません。また、家においても、家族がコミュニケーション方法を身につけていなければ、会話を楽しむこともできないのです。



盲ろう障害の多様性

一口に「盲ろう」といっても、見え方や聞こえ方の程度によって4つに分類されます。また、障害の発生順などによっても4つに分類がなされます。獲得しているコミュニケーション方法も各自で異なります。

| | | |
|-------|-------|--------|
| | 聞こえない | 聞こえにくい |
| 見えない | 全盲ろう | 盲難聴 |
| 見えにくい | 弱視ろう | 弱視難聴 |

活動紹介 ～全国盲ろう者大会～

毎年1回、全国各地の盲ろう者と、支援者が集う「全国盲ろう者大会」。東日本大震災があった2011年を除き、当協会の設立以来、欠かさず開催している本大会を、心待ちにしている方が沢山いらっしゃいます。今年は、静岡県で開催し、実に263名もの盲ろう者が集い、交流を深めました。



① 大会は盲ろう者が主体となり、支援者が ② 地元・静岡ならではの企画「芸術みたび」大会初の試み!!「盲ろう者芸術コンテスト」の様子
協力して運営しています ③ 観覧者

(8) 障害者スポーツミニ切手展

提供：聴覚障害者切手クラブ (筑波技術大学保健学科鍼灸学専攻准教授

大沢秀雄氏) よりデフリンピックのみ抜粋

7. デフリンピック 障害者スポーツ

デフリンピックとは4年に1回、世界規模で行われる聴覚障害者のための国際総合競技大会である。夏季大会は1924年に「リ」で第1回大会が行われた。冬季大会は1949年に「ゼーフェルト」で第1回大会が行われた。設立当初は聴覚障害者国際大会という名称であったが、1971年に世界ろう者競技大会(World Games of the Deaf)に名称変更、さらに2000年の争議を経て、2001年よりデフリンピックの名称となった。

第11回世界ろう者競技大会(ペオグラード、1969)

第12回世界ろう者競技大会(マルメ、1973)

記念印、MALMO、1973.7.20
ハードル競技が描かれる

小型シート
大会の記章が描かれる。
切手発行のあった最初の大会

第19回世界ろう者競技大会(ロサンゼルス、1985)

記念印
競技種目が描かれる

7. デフリンピック 障害者スポーツ

7. デフリンピック(2)

第13回世界ろう者競技大会(ブリス、1977)

切手付封筒
大会のロゴマーク

印刷:
DAN TÄRAN
STY. SÄLGERI BYRÖ
S-1500 TRÖSKJÄRKA
Sveby - P.O. Box 120404 - 1204
Sweden

第16回世界ろう者競技大会(クライストチヤネ、1973)

記念印
大会のロゴマーク

第16回デフリンピック冬季大会(ソルトレイクシティ、2007)

記念印、大会のロゴマーク

7. デフリンピック 障害者スポーツ

7. デフリンピック(3)

第17回世界ろう者競技大会(ソフィヤ、1981)

陸上競技
水泳
自転車
サッカー
テニス

百の形と「J」がデザインされている。

第21回夏季デフリンピック(台北、2009)

5元-台湾の郵政、夏の遊戯の情景に「ドミノ」種上競技を描く。
25元-夏のイメージ(騎牛の図)の情景にテニス種上競技を描く。
記念印(左)台北橋南南
大沢初日の記念印(陸上テニスコート)、(右)大沢真純日の記念印(サッカー)

3. 3 お国自慢コーナー／書籍販売コーナー

【 お国自慢コーナー 】

| | | | |
|-----------------------------------------------|------------------|-------|---|
| 出展者名 | 一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊦ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍販売、グッズ（ボールペン・付箋・メモ帳・クリアファイル・ポロシャツ・カレンダー等）販売 | | | |

| | | | |
|-----------------------|------------------|-------|---|
| 出展者名 | 社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊧ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍・DVD販売、らいおんぐるーぷ商品販売 | | | |

| | | | |
|--------|-----------------------------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊨ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍販売 | | | |

| | | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟（聴覚障害者切手クラブ） | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊩ |
| 《出展内容》 | | | |
| 全日本ろうあ連盟結成大会ポスター・オリジナル切手・指文字シール等の販売 | | | |

| | | | |
|-------------------|------------------------------------------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟（世田谷区聴覚障害者協会） | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊪ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍販売、グッズ（指文字便箋）販売 | | | |

| | | | |
|---------------|--------------------------------------------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟（東京手話通訳等派遣センター） | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊫ |
| 《出展内容》 | | | |
| 読み取りビデオ・DVD販売 | | | |

| | | | |
|---------------------------------|-------------|-------|---|
| 出展者名 | 神奈川県聴覚障害者連盟 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊦ |
| 《出展内容》 | | | |
| DVD・グッズ（手話ノート・手話メモ帳・手話カレンダー）等販売 | | | |

| | | | |
|-----------------------------------------------------------------------|------------------|-------|---|
| 出展者名 | 一般社団法人愛知県聴覚障害者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊧ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍販売、グッズ（クリアファイル・タブレットスタンド・スマホスタンド カレンダー・筆箱等）販売、宮さしめん3種・一口ういろう各種販売 | | | |

| | | | |
|----------------------|------------------|-------|---|
| 出展者名 | 一般社団法人三重県聴覚障害者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊨ |
| 《出展内容》 | | | |
| 手話言語条例（松坂市）制定後の活動の紹介 | | | |

| | | | |
|-------------------------------------------|------------------|-------|---|
| 出展者名 | 一般社団法人京都府聴覚障害者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊩ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍販売、グッズ（和紙セット・カレンダー・Tシャツ・クリアファイル等） 販売 | | | |

| | | | |
|-------------------------------|-----------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益社団法人大阪聴力障害者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊪ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍販売、地域活動支援センター「ほほえみ」手作り作品の販売 | | | |

| | | | |
|---------------------------------------------------|-----------------------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益社団法人大阪聴力障害者協会（千里福祉情報センター） | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊫ |
| 《出展内容》 | | | |
| 聴覚障害者用夜間情報伝達・避難誘導ボード「アングルボード」のデモ展示、 チラシ・カタログ配布 | | | |

| | | | |
|--------------------------------------|------------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊬ |
| 《出展内容》 | | | |
| 書籍販売、防災リュックサック・非常用食品の販売、事業所手作りグッズの販売 | | | |

| | | | |
|------------------------------------------------|------------------|-------|---|
| 出展者名 | 公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 | | |
| ブースの種類 | C | ブース記号 | ㊄ |
| 《出展内容》 | | | |
| フェイスタオル・クリアファイルの販売、聴覚障害者就労継続支援センター「ふくろう」の生産物販売 | | | |

【 書籍販売コーナー 】

| | | | |
|-----------------------|----------------|--|--|
| 出展者名 | 一般財団法人全日本ろうあ連盟 | | |
| ブースの種類 | C | | |
| 《出展内容》 | | | |
| 聴覚障害者や手話に関する書籍・グッズの販売 | | | |

3. 4 ミニステージ

感じるフロア内にミニステージを設置し、以下のプログラムを実施しました。

< 12月12日（土） >

- ・ 10：30～10：45 鳥取県〔展示ご案内〕
- ・ 12：00～12：30 千葉県聴覚障害者協会〔特別企画 映像上映会〕
タイトル「千葉の地方手話」「かみなり医者」
「ろう者が戦争の時代を語る」
- ・ 13：30～14：00 東京都聴覚障害者連盟[ミニ手話講座]
- ・ 14：00～14：15 筑波技術大学〔展示ご案内〕
- ・ 15：00～15：30 東京都聴覚障害者連盟[ミニ手話講座]
- ・ 15：30～15：45 日本財団〔展示ご案内〕
- ・ 16：30～17：00 東京都聴覚障害者連盟[ミニ手話講座]

< 12月13日（日） >

- ・ 10：30～11：00 東京都聴覚障害者連盟[ミニ手話講座]
- ・ 11：30～11：45 株式会社プラスヴォイス/シャムロック・レコード株式会社
〔展示ご案内〕
- ・ 12：00～12：30 千葉県聴覚障害者協会〔特別企画 映像上映会〕
タイトル「クロマツ」
- ・ 12：30～13：00 東京都聴覚障害者連盟[ミニ手話講座]
- ・ 13：30～14：00 東京都聴覚障害者連盟[ミニ手話講座]

4. 学ぶフロア

4. 1 学ぶフロアの目的と成果

情報アクセシビリティにかかわる最新の技術やサービスの紹介や展示を主とする「感じるフロア」に対し、「学ぶフロア」では情報アクセシビリティの意味をみんなで考え、情報アクセシビリティのある環境をみんなで作ることを目的として、シンポジウム6本、ワークショップ5本を実施しました。

企画の内容をよりテーマと密接したものにするために、それぞれにコーディネーターを配置しました。各企画とも非常に充実した内容になり（33 ページ～）、コーディネーターの「総括と課題」にもあるように今後の課題も明らかになりました。参加者のみなさまにとっても、情報アクセシビリティの大切さを感じていただける機会となったのではないのでしょうか。

また、情報アクセシビリティの考え方を念頭におき、会場準備を行いました。参加者がどこに座っても見やすいよう、大きな画面から手話言語と日本語文字の両方による情報を享受できるレイアウトをシンポジウム会場で準備し、ワークショップ会場では講師と参加者、そして参加者同士が直接コミュニケーションを取りやすいレイアウトを目指しました。

限られた人のみが情報を享受するのではなく、聴覚障害のある人も等しく情報を享受し、自分の言語で情報を発信又は受信できるアクセシブルなイベントを一つ実現できたと思いますが、聴覚障害のみならず様々な障害のある人々すべてにとって情報アクセシビリティと言えるイベントの実現に向けては、さらに学ぶべき事柄がたくさんあります。私たちの力で一步一步前進してゆきたいと思います。（準備室委員 大杉豊）

4. 2 学ぶフロアにおける情報アクセシビリティへの取組み

学ぶフロアで「情報アクセシビリティ」を実現させるために取り組んだ内容は、下記の通りです。

<事前準備>

広報活動において、学ぶフロアの全企画に手話通訳、パソコン要約筆記が用意されていることをウェブページやチラシなどに明記しました。ただし、DSFシステム（線音源スピーカー：フォナック・ジャパン株式会社提供）の設置があること、また、この仕組みの説明が欠けていたために、開催当日に一部の補聴器使用者から受けた「T回路に切り替えても聴こえ方が変わらない。磁気ループの設置はないのか。」との指摘に対応できませんでした。これは今後の課題です。

講師と参加者、参加者同士が直にコミュニケーションを取るワークショップの企画については事前申込制を採用し、参加者それぞれのコミュニケーション手段を確認することで、事務局が参加者の状況を事前に把握し、準備できるよう工夫しました。盲ろう者の参加申込に応じて、触手話、接近手話等の対応をしたワークショップもありました。

より適切かつ細やかな対応のためには、上述の補聴器使用者への対応とあわせて、今後難聴者や盲ろう者の情報保障についての情報収集、また関連団体との連携が事前準備の段階から必要だと痛感しました。

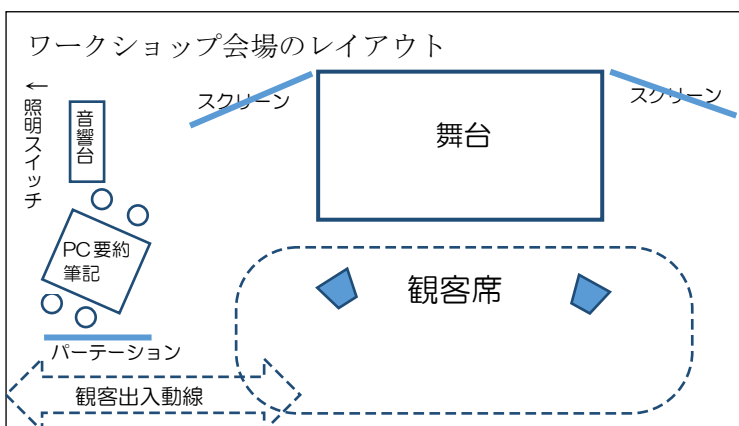
ワークショップでは、事前申込から参加者のコミュニケーション手段を把握できたことにより、参加者同士のディスカッション（討議）のコミュニケーションツールの準備を手配できました。テーブル上に広げてホワイトボードの感覚で自由に書き込んで消せる大きなホワイトシートとマジック、紙を挟んだクリップボード、画面に専用ペンで自由に書き込める電子筆談ボード（ブギーボード）です。これらツールは実際に、討議の進行と内容の記録両方において大きな効果を発揮しました。

シンポジウムを含む全企画の報告者（パネリスト含む）に対し、それぞれの言語・コミュニケーションの形式の確認を事前に行い、情報保障の段取り及び必要な機器の手配を進めました。発言形式としては手話、手話＋発声、発声などがあり、情報取得形式としては手話、音声、文字、（指）点字などがありました。

スライド原稿を準備する報告者に対しては、開催1週間前までにスライド原稿のデータを提出いただき、情報保障担当者が内容を事前に把握して当日に備えられるようにしました。また、視覚障害のある報告者や参加者にも、テキストに変換したデータを事前に送付するという目的がありました。実務の全体的な遅れで、スライド原稿のデータを情報保障担当者に提供できたのが開催2日前になり、事前準備に十分な時間を保障できなかったのは次回に向けての課題です。

＜スクリーン画面の位置と構成＞

ワークショップの会場（収容人数 約 100 名）は、床が平面であったため 40 cm 高、幅 4 間（720 cm）×奥行き 2 間（360 cm）の舞台を仮設し、150 インチ画面のスクリーンを上手と下手の両方に左右対称となるように設置しました。上手側はパソコン要約筆記の文字表示用に固定し、下手側は各企画によって様々なコンテンツの投影専用としました。



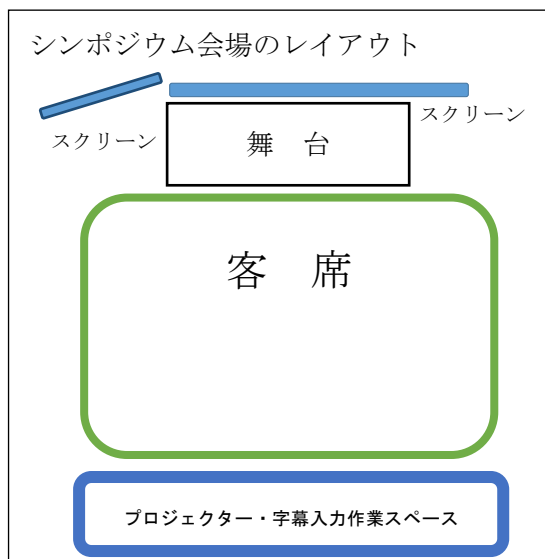
ワークショップ会場の
舞台とスクリーン



スクリーン2面それぞれに対応するプロジェクター（輝度 4,100 ルーメン）2機の設置が必要となりますが、設置する位置が観客席の中になってしまうために、プロジェクターの排気が観客にあたることや、観客の移動などでプロジェクターの位置がずれる、不意のことで電源が外れたりする不安が残りました。

シンポジウムの会場（収容人数 約 350 名）では、舞台中央に常設の 250 インチスクリーン、下手横に持ち込みの 180 インチスクリーンの設置というレイアウトで対応しました。観客席後方へのスクリーンに投影する輝度 7,700 ルーメンのプロジェクターの

設置を含め、業者と情報アクセシビリティ度の高い画面構成について検討を重ねました。数案を検討した結果、下手のスクリーンに報告者のスライドを投影し、中央スクリーンは最大3画面に分割して、状況に応じて手話とパソコン要約筆記の文字を大きく映し出せるよう構成しました。右下写真では、報告者（左）と手話通訳者（右）の下に文字が流れています。



シンポジウム会場の
舞台とスクリーン



登壇者向けにモニターを舞台前部に設置して、スクリーンに映し出されるのと同じ内容を見られるように配慮しました。

<調光>

スクリーンへの照明を落とすと報告者の顔が暗くなって手話が分からなくなる、逆に報告者の手話が分かるよう照明をあてるとスクリーンが明るくて読めなくなるというジレンマに悩まされました。ワークショップの会場では暗幕カーテンがなくブラインドの間隙から漏れてくる外光の問題はありましたが、窓側を背にしたレイアウト、スクリーン真上の消灯、輝度の高いプロジェクターの設置により、問題を最小限に抑えることが出来ました。

一方、シンポジウム会場には舞台用照明器具の常備がありましたので、舞台のレイアウトとあわせて調整することが可能となりました。第一に舞台をスクリーンからやや遠ざけて設置し、パネリストの座る位置を前方ギリギリに固定する、第二に手話使用者の立つ位置を上手ギリギリに固定する、第三に手話使用者の左右両面に照明が当たるようにすることを基本に調整して、登壇者に当たる照明が後ろに流れてスクリーン上に影を作ることのないようにしました。

以上の取組みを通して、学ぶフロアにおける「情報アクセシビリティ」をより100%近くまで高めることが出来たと思います。
(準備室委員 大杉豊)

4. 3 ワークショップ

ワークショップ1 「働きやすい職場づくり」

12月12日（土）13：30～15：00 参加人数：54名

コーディネーター：永井紀世彦（社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会 理事長）

協力者：速水千穂（社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会）

岡野敏昭（一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会）

高橋なつ子（埼玉県手話通訳問題研究会）

労働場面のアクセシビリティ

<目的>

ろう者が働くうえで、情報やコミュニケーションをどのように保障していくかはとても重要な課題です。ここでは、情報やコミュニケーションをきちんと保障し、ろう者が働きやすい環境とはどのようなものなのか、参加者全員で議論しました。

<内容>

ろう者、聞こえる人を含め、数名ずつ6つのグループに分かれ、グループ討議を行いました。討議方法は、まず、ろう者のみで意見交換を行い卓上のシートに自由に意見を書きます。次にその様子を見ていた聞こえる人がさらに意見や質問を追記し、グループで討議、意見をまとめます。討議の際は、手話のわからない聞こえる人（企業の人事担当等）を考慮し、筆談できるよう電子メモパッド（ブギーボード）を用意しました。まとめた意見を数グループが発表しました。

1つめのテーマは「仕事に関する連絡方法」。社内、社外問わず、ろう者は電話を使用する代わりに、筆談、UDトーク、ツイッター、電話リレーサービスなどを利用するという意見がありました。手話のできる人が周囲にたくさんいるのが一番よいとの声もありました。

2つめのテーマは「職場で情報をいかに得るか」。社内ネットワークやメールの使用等、情報の「見える化」は進んでいますが、例えば職場での「暗黙の了解」などはろう者がつかみづらいものです。その場合、わからないことはろう者から意思表示することが重要との意見がありました。



永井氏



グループ討議



発表

<総括と課題> (永井コーディネーター)

ワークショップ1では、1時間30分と時間が限られていましたが、2つのテーマについて参加者が熱心に討議している様子が見られました。

ろう者が働きやすい職場をつくるためには、職場における情報やコミュニケーションの保障が必要不可欠です。職場内外の連絡手段を保障するだけでなく、業務の手順について背景や理由も含めて理解し、また職場で「暗黙の了解」となっていることや職場内のさまざまな事情等についても把握できるような支援が必要となります。

今回のような取り組みを今後も続けていくことで、ろう者への理解がさらに広まっていくことを期待しています。

ワークショップ2「手で創るアート(1)」

12月12日(土) 16:00~17:30 参加人数:82名

コーディネーター:早瀬憲太郎(映像作家、ろう児対象の学習塾「早瀬道場」経営)

コーディネーター補佐:管野奈津美(国立大学法人筑波技術大学 技術補佐員)

講師:庄崎隆志(office風の器代表、演出家、劇作家、俳優)

小泉文子(日本ろう者劇団所属 女優)

ゲスト:鳥取県立鳥取聾学校演劇部

(第2回高校生手話パフォーマンス甲子園(2015年9月22日開催 鳥取県代表))

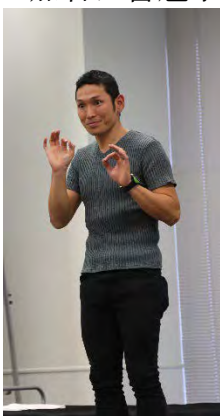
聞こえない世界・手話へのアクセシビリティ

<目的>

実際に手や体を動かし、ろう者の俳優から、手話の豊かな表現力や奥深さを学びます。

<内容>

鳥取聾学校の高校生5名が、沖縄の旧・北城ろう学校野球部を題材に手話劇を披露しました。手話によるセリフはスクリーンに投影し、セリフを発するタイミングは照明の点灯や色の変化をつかみ話しました。続いて、ろう俳優の庄崎氏と小泉氏の指導で、参加者全員が手や体を動かしました。3つのグループに分かれ、「四季」をテーマにそれぞれ与えられた季節の身体表現をグループ全体で考え舞台上で発表しました。さらにろう俳優二人からそれぞれ「残る命」「雨ニモマケズ」をテーマにパフォーマンスいただき、参加者は皆魅了されました。



早瀬氏



鳥取県立鳥取聾学校演劇部



庄崎氏

小泉氏



庄崎氏と体を動かさず参加者



参加者による発表

<総括と課題> (早瀬コーディネーター)

今回のワークショップは日本を代表するろう者俳優達による手話のパフォーマンスを観るだけでなく、実際に自分たちも考えながら表現していくというワークショップのテーマである「手で創るアート」に相応しい内容でした。受動的、能動的の両方で手が紡ぎだすアートの魅力、その世界観を会場にいる全員で共有、共感することができました。

課題としては、ワークショップの目的として、通訳がつかない場面があるということを含めたねらいを、予め参加者に対して掲示していく必要がありました。

ワークショップ3 「誰にでもすぐに電話できる環境づくり」

12月13日(日) 10:00~11:30 参加人数: 79名

コーディネーター: 井上正之 (国立大学法人筑波技術大学

産業技術学部産業情報学科 准教授)

コーディネーター補佐: 小島展子 (国立大学法人筑波技術大学大学院)

コメンテーター: 伊藤芳浩 (NPO法人インフォメーションギャップバスター 理事長)

高岡正 (一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 相談役)

電話へのアクセシビリティ

<目的>

電話は便利な機械です。では、ろう者が電話を使うにはどのような方法があるのでしょうか。参加者のデモ体験をふまえ、ろう者がいつでも電話できるより良い環境づくりを考えます。

<内容>

「宅配便の再配達を依頼する」電話リレーサービスのデモを行いました。電話依頼をするろう者、依頼電話を受ける宅配便会社オペレーター役の聞こえる人を参加者から選び、ろう者は舞台上、オペレーター役は会場奥の舞台が見えないところに着席します。現在日本財団の電話リレーサービスを試験的に行っている熊本県聴覚障害者情報提供センターへ、ろう者が実際にテレビ電話をかけ、再配達依頼の希望を伝えました。今回、電話リレーサービスを行うセンターの様子を投影しました。センターがろう者とオペレーターを手話通

訳でつなぎ、ろう者でも電話で会話がスムーズに出来ることを体験しました。

次に、「歯医者予約」について、沖縄で文字リレーサービスを行う事業者「アイセック」とつなぎデモを行いました。ろう者は電話に接続された入力画面に、予約日時等を入力します。先方には音声となって伝わり、先方の音声は文字で現れます。

最後に「クレジットカード紛失のための利用停止依頼」をアイセックの字幕電話サービスでデモを行いました。声は出せるが音声は聞き取れないというろう者が、先方の声を文字で受け取る方法です。

デモ終了後、フロアの参加者からデモの感想やサービスに対する質問、実際にサービスを利用している方からの意見等、活発な討議が行われました。

これらをふまえ、コメンテーターから、電話リレーサービスの普及の必要性と課題をミニ講演いただきました。



井上氏



伊藤氏

高岡氏



電話リレーサービスの実体験

<総括と課題> (井上コーディネーター)

参加者の中で電話リレーサービスを実際に使った経験があるのは1割程度ということもあり、3種類の電話リレーサービスの実体験によりサービスの有用性を理解していただけだと思います。その後のフロアディスカッションでも色々な立場からの意見交換があり、その中でも、犯罪目的でサービスを利用する可能性があることへの危惧など、今後日本において電話リレーサービスを公共サービスとして実施していく上での要検討課題もいくつか出てきたのは大きな収穫でした。

コメンテーターの伊藤氏・高岡氏の話もサービスの有用性と普及に向けた課題についてよくまとめられていました。

今回のワークショップを受け、公的電話リレーサービスの実現に向けてさらに取り組んでいきたいと思っています。

ワークショップ4 「手で創るアート (2)」

12月13日(日) 12:30~14:00 参加人数: 88名

コーディネーター: 早瀬憲太郎 *ワークショップ2 記載参照

コーディネーター補佐: 管野奈津美 (国立大学法人筑波技術大学 技術補佐員)

ゲスト: 奈良県立ろう学校演劇部 (第2回高校生手話パフォーマンス甲子園 2015年9月22日開催 優勝)

HANDS I G N (ハンドサイン)

(音楽と手話を融合させたオリジナルスタイルで、観客にメッセージを伝える5人組ボーカル&パフォーマンスグループ)

音楽へのアクセシビリティ

<目的>

音楽に合わせた手話表現からその高いメッセージ性をとらえ、また、実際に手話をリズムカルに表現し、伝えることを学びます。

<内容>

HANDSIGNの自己紹介を兼ねた映像と本人たちのステージでの歌でオープニングが終わると、次に奈良県立ろう学校の高校生5名によるパフォーマンスが披露されました。聞こえないことの葛藤と希望を題材に熱意あふれるオリジナルの手話劇が披露されました。

再びHANDSIGNが登壇すると、参加者が一緒に踊れるよう簡単なダンスをレクチャーし、ステージと会場にいる全員で音楽に合わせて2曲手話ダンスを行い、さながらライブ会場のように盛り上がりました。HANDSIGNのパフォーマンスでは、一緒に手を動かす参加者もいました。音楽の歌詞はスクリーンに投影しました。



奈良県立ろう学校演劇部



ダンスレクチャー



ダンスレクチャー



HANDSIGN

【総括と課題】（早瀬コーディネーター）

ダンスと手話を高いレベルで融合しているHANDSIGNのパフォーマンスは、手話で創るアートの可能性が、ジャンルにとらわれない広がりをもっていることを参加者に強く印象づけました。

中学保健体育においてダンスが必須となっており、手話を取り入れたダンスの存在をアピールすることは、手話がろう者のみならず聞こえる人にとっても仲間とのコミュニケーションを豊かにし、自己表現の楽しさ、喜びを味わうことが出来るものと考えます。

ワークショップ5 「みんなで関わる大学の授業づくり」

12月13日（日）15：00～16：30 参加人数：83名

コーディネーター：吉川あゆみ（関東聴覚障害学生サポートセンター）

コメンテーター：白澤麻弓（国立大学法人筑波技術大学

障害者高等教育研究支援センター 准教授）

協力者：長野留美子、倉谷慶子、田中啓行（関東聴覚障害学生サポートセンター）

高等教育機関のアクセシビリティ

<目的>

聴覚障害のある学生は約36%の大学に在籍しています。しかし十分な情報保障を得られていないのが現状です。ここでは授業の情報保障を体験し、授業や大学生活上の情報保障について考えます。

<内容>

白澤氏より、大学での情報保障の現状と2016年4月より施行される障害者差別解消法で大学において何が可能となるのか、ミニ講演がありました。

続いて、実際に大学の講義で行われている情報保障として、ノートテイク・パソコンテイク・手話通訳の模擬講義を順に疑似体験しました。聴覚障害の有無に関わらず全参加者に聴覚障害のある学生と同じ状況を体験してもらうため、舞台上の講師役は声を出さず、各支援者役はイヤホンで講義の音声を聞きながら、支援の様子を演じました。参加者は会場のスクリーンに投影されたノートテイクやパソコン入力された画面、舞台上の手話通訳者を見て、講義内容を理解し、3種の情報保障方法の違いについて確認しました。

次に、大学の障害学生支援室での相談の様子をロールプレイで提示し、参加者同士で意見交換を行いました。意見交換の際には、参加者で手話のできない聞こえる人が筆談できるよう、電子メモパッド（ブギーボード）を用意しました。聴覚障害のある学生から情報保障の希望を受けたときの大学教職員の対応について、大学教職員が本人の要望を引き出す一方で、聴覚障害のある学生自身も問いかけや要望の伝え方について工夫等が必要という意見や、大学教職員が聴覚障害学生の授業理解度を確認する必要がある等意見が出ました。



吉川氏



白澤氏



隣同士で討議する参加者

最後に白澤氏は、障害者差別解消法施行で大学での学習環境は向上すると思われるが、聴覚障害学生が自ら意思表示することが支援の前提となることを強調されました。

<総括と課題> (吉川コーディネーター)

現役の大学生から、ご家族、ろう学校教員、大学教員、通訳者、聴覚障害OBまで幅広い方々が来場し、活発な意見交換あり、率直な発表ありの密度の濃い時間となりました。

これまでに何がしかの通訳を見たり受れたり、あるいは通訳者として支援に入ったりしたことはあるものの、実際にノートテイク、パソコン通訳、手話通訳のすべてを経験したことのある方は少なく、「各手段の比較が興味深かった」「普段は支援提供する立場だが、自分も通訳を受ける経験ができてよかった」という声や、「ロールプレイで支援の様子がイメージしやすかった」という声が聞かれました。

聴覚障害学生にしても、関係者にしても、早い段階からあらゆる支援手段を疑似体験し、支援のポイントを学ぶことが、障害者差別解消法における「意思表示」を支え、情報保障の質を高めることにつながるでしょう。

4. 4 カンファレンス

シンポジウム1「情報アクセシビリティへの挑戦」

12月12日(土) 10:00~12:00 参加者 164名

コーディネーター:佐川賢(国立研究開発法人産業技術総合研究所 客員研究員)

報告:森川美和(公益財団法人共用品推進機構)

澤田大輔(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

松森果林(ユニバーサルデザインアドバイザー)

佐川賢(国立研究開発法人産業技術総合研究所)

<目的>

テレビCM、公共交通機関、製品などで、ろう者が必要とする情報アクセシビリティに挑戦している企業や団体の取り組みを学び、情報アクセシビリティにおける現状の課題を整理し、今後の展望を学びます。

<内容>

森川氏からは、製品の情報のアクセシビリティを向上するためには、製品に対して困ったことと良かったことをきちんと関係者に伝えて反映していくことが必要であり、良かったことが当たり前になるために、当事者である障害者が積極的に発信して欲しいという報告がありました。

澤田氏からは、交通バリアフリーが目指すものは移動の円滑化であり、ハードウェアのバリアフリー整備だけでなく、障害の種類や身体状況を固定的にとらえずに、実際の(移動の)ニーズがどのよ



森川氏



澤田氏

うなものかを考え、バリアフリー化を進めていくことが大切であると述べられました。

佐川氏からは、人間工学からの視点から、アクセシブルデザインの普及・推進のためには、人間特性（聴覚・視覚・触覚など）に関する利用しやすいデータベースの整備が必要で、そのデータを利用した多様な人間特性に適合するデザインの開発が望まれると話されました。

松森氏は、18年間CM字幕化の取り組みに関わった経験から、CM字幕のメリットは「疎外からの解消」「情報がわかること」「買い物がかわったこと」「企業に対する評価の向上」の4つであり、「黙ってあきらめていたらなかったことにされてしまう。声を上げれば必ず何かに繋がる。」と積極的に企業に要求して欲しいという報告がありました。



佐川氏



松森氏

<総括と課題> (佐川コーディネーター)

情報アクセシビリティの現状について、製品、交通、人間特性、CM字幕、という異なる4つの視点から議論することができたことは、非常に有意義でした。「製品」は物をデザインする側から、交通は環境整備の立場から、人間特性は研究面から、CM字幕は当事者から、それぞれが情報アクセシビリティを向上させるために誰が、何を、どうすべきかという点を明らかにしました。アクセシビリティは産学官で取り組み、このうち一つが欠けてもなかなか全体の歯車が動かないと言われます。ここに障害のある人が自ら積極的に参加することの必要性が最後の松森氏のお話から伺えました。産学官民の連携強化がこれからの課題となるでしょう。



パネルディスカッション

シンポジウム2 「私たち当事者団体のチャレンジ」

12月12日(土) 13:00~14:30 参加者 346名

コーディネーター:小中栄一(一般財団法人全日本ろうあ連盟 副理事長)

基調報告: 「なぜ、今、情報アクセシビリティなのか」

石野富志三郎(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事長)

報告: 新谷友良(一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事長)

鈴木孝幸(社会福祉法人日本盲人会連合 副会長)

福島智(社会福祉法人全国盲ろう者協会 理事)

<目的>

連盟、全難聴、盲ろう者協会、日盲連から代表者が集い、情報アクセシビリティに関する当事者団体としての取組課題や要望をアピールしていきます。

<内 容>

まず、石野より、2年前と比べて情報アクセシビリティという言葉が浸透しつつあり、いつでもどこでも、誰にでも誰からも、自由に必要な情報を提供し提供される環境整備をしていくことが大事だと報告がありました。

新谷氏からは、全難聴の取り組みとして、デシベルダウンの運動、医療と福祉の観点から新たなモデルとして、きこえの健康支援センターの構想の必要性を話されました。2016年4月施行の障害者差別解消法を見据え、インクルーシブな社会に向けて、コミュニケーション支援の普及、また、コミュニケーションの学習等が大切だと述べました。

鈴木氏からは、視覚障害者における情報アクセシビリティの観点から、「情報アクセシビリティに関する理念体制」、「情報保障の量、質、タイミングについて」「情報提供の作りかた、構築体制」「ニーズに応じているか合っているかどうか、様々な方法の提供」と4つのポイントを話し、視覚障害者の情報アクセシビリティに対する理念をきちんと啓発していくことが重要性について報告がありました。

福島氏からは、盲ろう者の立場は、テレビの画面を消して、スピーカーも消している状況と同じであるとわかりやすく説明し、広い意味でのコミュニケーションを保障すること、コミュニケーションのアクセシビリティを向上させることが必須の課題であると報告がありました。

最後に、石野がまとめとして、当事者自ら意見を述べる、提言することが大事であり、いつでもどこでも誰でも情報にアクセス出来る社会を目指したいと、共通の願いをアピールしました。



新谷氏



鈴木氏



福島氏



石野実行委員長



パネルディスカッション

＜総括と課題＞（小中コーディネーター）

限られた時間でしたが、聴覚と視覚の感覚機能障害の当事者団体が一堂に会し、それぞれが求める情報アクセシビリティの理念、現状、課題をアピールして頂きました。また当事者のチャレンジによる成果もいくつか紹介して頂きました。それぞれの違いはありますが、情報を共有すること、コミュニケーションのアクセシビリティが不可欠であること等を確認できたと思います。当事者のチャレンジをみんなに知ってもらいたいと思いました。

シンポジウム3 「障害者スポーツのチャレンジ」

12月12日（土）15：30～17：00 参加者 163名

コーディネーター：及川力(国立大学法人筑波技術大学 名誉教授)

コーディネーター補佐：向後佑香（国立大学法人筑波技術大学 助教）

記念講演：「障害者スポーツの現状、今後の展望」

鳥原光憲（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 会長）

パネリスト：河合純一（パラリンピアン 水泳）

竹島春美（デフリンピアン 卓球）

太田陽介（一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 委員長）

川上雅史（オリンピック ボクシング）

＜目 的＞

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが日本で開催されることになり、大会に向けて、障害のあるアスリートの環境の改善、充実が求められており、どのように取り組んでいくかを議論していきます。

＜内 容＞

鳥原氏の講演では、2011年のスポーツ基本法施行に伴い、障害者スポーツの普及・拡充とトップレベルの大会で活躍できるような競技レベルの向上を図ることが、障害者の自立と社会参加を促進し、活力のある共生社会の実現につながるというお話がありました。

河合氏からは、パラリンピックの経験から、障害者スポーツにおけるアクセシビリティは、「するスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」の3点を保障することが大事であり、2020年東京パラリンピックを契機に、アクセシビリティに配慮したスポーツ環境の推進のため、日本が手本となるよう取り組んでいきたいと決意を込めたお話がありました。

竹島氏は、一般の卓球大会で、呼び出しの放送や召集場所、試合場所の変更などの情報がわからなかったこと、音のカウント器のカウントが聞こえず、リズムを掴めず敗退したこと等から、情報保障があれば、聞こえる選手と同じスタートラインに立ち、試合が出来る環境になると環境整備の重要性を述べられました。

太田は、デフリンピックの運営は、「手話中心のコミュニケーション」「オリンピックと同じ競技ルール適用」、「ろう者自身による運営」の3つの特性があること、パラリンピックと比べると認知度がまだ低いため、更なる周知を図り、ろう者のスポーツ環境を充実させたいと話しました。

川上氏は、自分の生い立ちからオリンピック出場までの道のりや、ボクシングに出会っ

たことで人生が変わったことを熱く話し、ヒットマスボクシング（寸止め）、エアボクシングなど、子供から高齢者、女性も楽しめるボクシングをあると紹介いただきました。



鳥原氏



河合氏



竹島氏



パネルディスカッション

<総括と課題>（及川コーディネーター）

今後（東京パラリンピックとそれ以降）に向けて、障害者スポーツの底辺の拡大と競技レベルの向上が欠かせません。障害者アスリートのアクセシビリティの向上に向けて、する（アスリート）、支える（審判など）、見る（観客など）サイドそれぞれの抱えるバリアを解消する努力が求められます。

シンポジウム4 「企業のチャレンジ」

12月13日（日）10：00～11：30 参加者 160名

コーディネーター：石原保志（国立大学法人筑波技術大学 副学長）

コーディネーター補佐：小林洋子（国立大学法人筑波技術大学 助教）

パネリスト：遠藤和夫（日本経済団体連合会 労働政策本部 統括主幹）

小林信（全国中小企業団体中央会 労働・人材政策 本部長）

小林武弘（ハローワーク品川障害者 専門支援員）

岩山誠（鹿児島大学大学院・元ハローワーク 職員）

<目的>

ろう者が自分の力を最大限に発揮できる環境づくりを、「企業経営」「就労支援」「労働行政」の視点で考察しながら、ろう者の就労支援、キャリア形成、合理的配慮等のあるべき姿について、学んでいきます。

<内容>

遠藤氏から、まず障害者差別解消法と改正障害者雇用促進法の関係について説明があり、合理的配慮の指針は、「募集、採用の場面」と「募集採用後、労働契約を締結すること」の、大きく2つに分けて考えること、課題として障害者の職場定着、継続雇用の取り組みについて、本人、事業主、サポートする人の更なる連携が求められる旨が提案されました。

小林(信)氏からは、中小企業ではなかなか障害者雇用が進んでいない現状を踏まえて、中小企業団体中央会のチャレンジとして「中小企業における障害者雇用の促進」「改正障害者雇用促進法の周知」「障害者支援機器等の研究開発支援」の3つの取り組みを行っている旨の紹介がありました。

小林(武)氏からは、特例子会社社長の経験から、ろう者の採用状況、キャリアプランの実例について紹介がありました。また、合理的配慮の観点から、企業側の努力は必要だが当事者も自らコミュニケーションについて企業ときちんと話してほしいと指摘がありました。

岩山氏からは、ろう者の就労支援について自身のイギリスの研修成果を紹介しながら、従来ろう者の配慮ニーズに対して職場適応支援が多かったこと、高学歴化を背景に近年はキャリア支援のニーズが高まっていることが紹介されました。イギリスの制度「Access to Work」を参考にした場合、手話通訳のスタッフの常駐などのサポートなど合理的な配慮を提供するための公的な制度が必要であることが強調されました。

石原氏からは、聴覚障害学生のキャリア発達、就活、職場適応の支援、指導に約20年にわたり携わった経験から、教育的観点で、「聴覚障害学生に対する求人と就職の状況」「職場での状況」「職場環境整備とセルフアドボカシー」について現状と課題が報告されました。



パネルディスカッション



石原氏

<総括と課題> (石原コーディネーター)

2016年度から施行される差別解消法、改正障害者雇用促進法に向けて、ろう者の就職、就労環境は改善されていくことが予想されます。しかし法律や制度が整備されても、事業所やそこで働く人々の意識が変わる(啓発される)までには、まだ暫くの時間を要するでし

よう。一般社会の意識変化は徐々に進むでしょうが、今回のディスカッションを通して、今現在は、経済的な観点と合理的配慮の拮抗あるいは適切な妥協点が課題となっていることが明らかにされました。

シンポジウム5 「自治体のチャレンジ」

12月13日（日）12：30～14：30 参加者 400名

コーディネーター：長谷川芳弘(一般財団法人全日本ろうあ連盟 副理事長)

講演：「情報アクセシビリティ社会へ ～鳥取県手話言語条例の挑戦」

平井伸治(鳥取県知事)

パネリスト：

田岡克介(北海道石狩市長)、泉房穂(兵庫県明石市長)、品川萬里(福島県郡山市長)、
浜田正利(北海道新得町長)、安田正義(兵庫県加東市長)、宮本泰介(千葉県習志野市長)

<目的>

手話言語条例等を制定した自治体から、聞こえない人が当たり前で生活できる街(地域)づくりについて提言をいただき、手話言語法制定に向けての取り組みを更に高めていくための議論を行いました。

<内容>

講演では鳥取県平井知事より、条例が出来るまでの経過や制定についてと、制定後の成果として、登録手話通訳者の増加、学校に手話教材の導入、遠隔手話通訳、音声認識システムの導入など様々な事例の説明がありました。

その後6市町の長より手話言語条例の効果、今後の課題について報告がありました。

石狩市の田岡市長は、条例が出来るまでの苦労話や手話の普及に力を入れたことをお話いただき、報告の途中には、高校生が学校で手話を学んで得たことを手話で披露しました。

明石市の泉市長は、市の施策として、手話通訳資格を持つ専門職の採用、手話検定などを活用した職員研修、市内市立小学校28校での手話体験教室等をあげ、手話言語の確立に加え、多様なコミュニケーションの促進、障害者差別解消条例の制定も促進したいと述べられました。

郡山市の品川市長は、条例に特徴ある施策を3つ挙げ、12条の災害時の対応、13条の情報通信技術(ICT)の活用、14条のその他の意思疎通支援の推進の取り組みを紹介し、情報アクセシビリティを積極的に推進したいとお話されました。

新得町の浜田町長は、ろう者授産施設があり、通訳者の確保、高齢ろう者対策等の課題はあるが、「慣れ親しむ」というキーワードで人材育成などに取り組みたいと話しました。

加東市の安田市長は、現在、加東市ケーブルテレビのワンポイント手話講座や地域での手話講座などで手話の普及を図っていることや障害の有無にかかわらず、共に生きていける社会を1日でも早く実現したいとお話されました。

習志野市宮本市長は、「障害者の情報取得やコミュニケーションを保障する環境整備の推進と手話が言語であることの認識を深め、障害の有無に関らず暮らしやすい共生社会の実現を目指す土壌を地域社会で培うこと」を狙いとして条例案を作成したことをご報告いた

できました。

パネルディスカッションでは、「条例後、市民の反応はどう変わったか」についてそれぞれがコメントをし、最後に鳥取県平井知事がまとめとして「手話を使いやすい環境を整え、言語革命を起こしたい」とお話されました。

〈総括と課題〉（長谷川コーディネーター）

1 県 6 市の自治体が一堂に会し、条例制定の報告を出来たことが大きな収穫でした。

各自治体から制定後の波及効果として、手話を学ぶことでコミュニケーションの大切さを知ったこと、条例ができたことで自分達のまちを自ら考えるきっかけになったことなどがあげられた反面、手話通訳者の養成など人材育成、予算の確保などの課題も出されました。条例施策の充実を図るためにも、このような企画が今後も必要だと強く感じました。



鳥取県 平井知事



北海道石狩市 田岡市長



石狩市 石狩翔陽高校の生徒



兵庫県明石市 泉市長



福島県郡山市 品川市長



北海道新得町 浜田町長



兵庫県加東市 安田市長



千葉県習志野市 宮本市長

シンポジウム6 「国のチャレンジ」

12月13日（日）15：30～17：00 参加者 195名

コーディネーター：黒崎信幸（社会福祉法人全国手話研修センター 理事長）

パネリスト：時末大揮（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室
情報支援専門官）

後藤芳一（日本福祉大学客員教授、東京大学教授）

田門浩（弁護士・内閣府障害者差別解消支援地域協議会の在り方検討会構成員）

<目的>

2016年4月から障害者差別解消法が施行された後、手話通訳制度など情報アクセシビリティは障害者政策の中でどのように位置づけられていくかを学ぶとともに、課題を整理し、次の取り組みに向けて考えます。

<内容>

最初に時末氏から聴覚障害者の福祉の在り方を中心に意思疎通支援事業についての報告がありました。障害者総合支援法施行後3年を目途とした見直しとして意思疎通支援事業の在り方について議論を進めていること、第3次障害者基本計画が策定され、この計画には、大きく10の分野が設けられています。そのうちの1つに、「情報アクセシビリティ」の項目が挙げられており、例えば、情報通信における情報アクセシビリティの向上、情報提供や意思疎通の充実、バリアフリー化を促進についての現状を報告されました。

後藤氏からは障害者権利条約の批准から障害者差別解消法までの経緯を中心に話しがあり、障害者権利条約では情報アクセシビリティや環境が整備された「社会モデル」が求められていること、2016年4月から施行となる障害者差別解消法では、各省から出されているガイドラインをよく見極めながら合理的配慮の在り方を整理していくことが大事だとお話がありました。

田門氏より、障害者総合支援法では、情報アクセスコミュニケーションを権利として保障すること、地域格差を解決すること、手話通訳者などの身分保障が充実すること、財源を保障することなどが明確な規定になっていないとの指摘があり、手話言語法と情報コミュニケーション法の整備が急務であると提言がありました。

<総括と課題>（黒崎コーディネーター）

当事者の取り組みから始まる一連のシンポジウムは、仕上げとして「国の取り組み」に結び付けた狙いは一応出せたと思いますが、話された内容が今後どのように具現化されるか、参加者だけでなく国民全体が注視していかなければならないと考えます。



時末氏



後藤氏

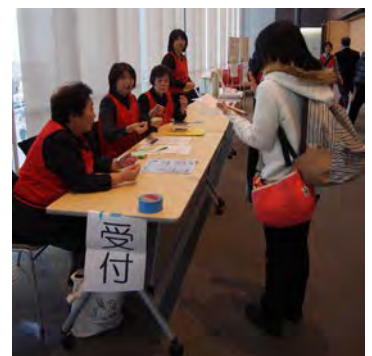


田門氏



パネルディスカッション

シンポジウム会場の様子



5. 式典・特別講演・ご視察

5. 1 式典

フォーラム開催に先立ち、式典を12月12日（土）10時より、UDXギャラリーにて実施しました。

司会：一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事 松本正志

司会：開会あいさつ

秋篠宮妃殿下並びに佳子内親王殿下ご入場

主催者あいさつ

情報アクセシビリティ・フォーラム2015 実行委員会

委員長 石野富志三郎（一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事長）

歓迎のことば

情報アクセシビリティ・フォーラム実行委員会

名誉会長 清水潔氏（明治大学 特任教授）

来賓あいさつ

内閣府大臣政務官 牧島かれん様

総務大臣政務官 輿水恵一様

厚生労働大臣政務官 太田房江様

文部科学大臣政務官 豊田真由子様

内閣府総理大臣 安倍晋三夫人 安倍昭恵様

自由民主党 衆議院議員 野田聖子様（障害児者問題調査会 会長代理）

自由民主党 衆議院議員 菅原一秀様（ネットメディア局長）

公明党 衆議院議員 高木美智代様（障がい者福祉委員会 委員長）

石狩市 市長 田岡克介様

加東市 市長 安田正義様

秋篠宮妃殿下おはなし

「情報アクセシビリティ・フォーラム2015」によせて

秋篠宮妃殿下並びに佳子内親王殿下ご退場

司会：式典閉会のあいさつ



秋篠宮妃殿下並びに佳子内親王殿下ご入場



情報アクセシビリティ・フォーラム 2015
実行委員会 委員長 石野富志三郎



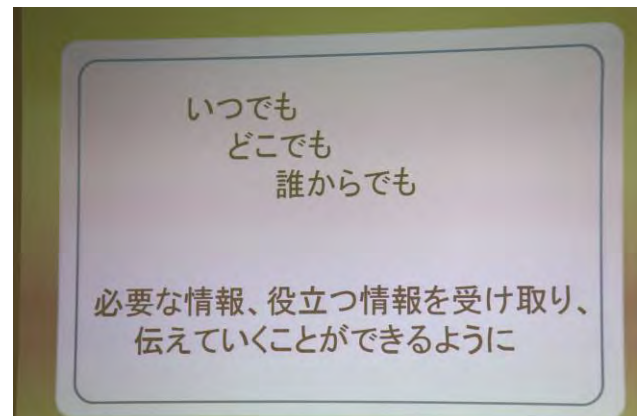
約 120 名の参列者を迎えて
盛大に行われた式典



秋篠宮妃殿下より『「情報アクセシビリティ・フォーラム 2015」によせて』のテーマを手話を使いながらお話になりました。



いつでもどこでも誰からでも
情報にアクセスできることが
大切と述べられました。



情報アクセシビリティについて
パワーポイントを使ったわかり
やすい内容でした。

式典ご臨席者

| | | |
|-----------------------------------------|--------|---|
| 内閣府 大臣政務官 | 牧島かれん | 様 |
| 内閣府 参事官 | 坂本大輔 | 様 |
| 総務省 大臣政務官 | 興水恵一 | 様 |
| 厚生労働省 大臣政務官 | 太田房江 | 様 |
| 厚生労働省 社会援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室 情報支援専門官 | 時未大揮 | 様 |
| 文部科学省 大臣政務官 | 豊田真由子 | 様 |
| 国土交通省 総合政策局安心生活政策課 課長 | 松本勝利 | 様 |
| 内閣府総理大臣夫人 | 安倍昭恵 | 様 |
| 自民党 | 野田聖子 | 様 |
| 自民党 | 菅原一秀 | 様 |
| 公明党 | 高木美智代 | 様 |
| 石狩市 市長 | 田岡克介 | 様 |
| 加東市 市長 | 安田正義 | 様 |
| 秋田県秋田市議会 議員 | 竹内伸文 | 様 |
| 公益財団法人日本財団 理事長 | 尾形武寿 | 様 |
| 国立大学法人筑波技術大学 学長 | 大越教夫 | 様 |
| 公益財団法人共用品推進機構 理事 | 望月庸光 | 様 |
| 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 事務局長 | 小石公二郎 | 様 |
| 一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 常務理事 | 今井正道 | 様 |
| 一般社団法人情報通信技術委員会 専務理事 | 前田洋一 | 様 |
| 一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 参事・研究部会長 | 木暮毅夫 | 様 |
| 日本映画監督協会 映画監督・プロデューサー | 佐藤武光 | 様 |
| 秋葉原電気街振興会 事務局長 | 荻野高重 | 様 |
| 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 事務局長 | 中塚範之 | 様 |
| 株式会社ニューメディア 編集長 | 吉井勇 | 様 |
| 公益財団法人ダスキン愛の輪基金 事務局長 | 山本典芳 | 様 |
| 日本リハビリテーション連携科学学会 顧問 | 奥野英子 | 様 |
| 一般社団法人 全国肢体不自由児・者父母の会連合会及び | 清水誠一 | 様 |
| 公益財団法人 北海道肢体不自由者福祉連合協会 会長 | 金田秀樹 | 様 |
| 中日新聞社 論説室 | 久保豊子 | 様 |
| 公認会計士 | 参与 関宜正 | 様 |
| (公社) 東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟 | 長島一道 | 様 |
| 国立大学法人 筑波技術大学 総合デザイン学科長 | 大河原則 | 様 |
| タツノコ出版(株) 営業部長 | 石川芳郎 | 様 |
| 一般社団法人全国手話通訳問題研究会 会長 | 小椋英子 | 様 |
| 一般社団法人日本手話通訳士協会 会長 | 黒崎信幸 | 様 |
| 社会福祉法人全国手話研修センター 理事長 | 大嶋雄三 | 様 |
| 認定NPO法人CS 障害者放送統一機構 専務理事 | 大川津雅弘 | 様 |
| NPO法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会 理事 | 長尾康子 | 様 |
| NPO法人全国要約筆記問題研究会 理事 | 中村吉夫 | 様 |
| 社会福祉法人聴力障害者情報文化センター 理事長 | 新谷友良 | 様 |
| 一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事長 | 松井逸朗 | 様 |
| 社会福祉法人日本身体障害者団体連合会 会長 | 鈴木孝幸 | 様 |
| 社会福祉法人日本盲人会連合 副会長 | 鈴木厚子 | 様 |
| 全国手をつなぐ育成会連合会 会長 | 藤井克徳 | 様 |
| NPO法人日本障害者協議会 代表 | | |
| その他、加盟団体代表者、連盟役員、実行委員会委員等関係者各位 | | |

計 115 名

5. 2 特別講演

12月12日（土）11：00～12：00

特別講演として、日本財団理事長 尾形武寿氏より「日本財団が目指す誰もが生活できる社会」というテーマで、来るべき社会像についてわかりやすくお話しいただきました。



5. 3 感じるフロア・学ぶフロアご視察

各フロアでは、12月12日（土）に来賓の皆様をお迎えしました。

・12月12日（土）11：00～12：00

秋篠宮妃殿下並びに佳子内親王殿下が、感じるフロア展示をご視察になりました。



内閣府総理大臣夫人安倍昭恵様、議員の皆様が感じるフロア展示をご視察されました。



・12月12日（土）13：00～14：30

秋葉原コンベンションホールにおいて、秋篠宮妃殿下および佳子内親王殿下にシンポジウム「私たち当事者団体のチャレンジ」をご聴講いただきました。



・12月13日（日）12：30～15：30

秋葉原コンベンションホールにおいて開催された、シンポジウム「自治体のチャレンジ」には、東京都、宮崎県日向市をはじめ、多くの自治体関係者や議員の皆様のお来場があり、手話言語条例への地域の関心の高さがうかがえました。



6. 運営体制

(1) 実行委員会

| | | |
|-------|--------|-----------------------------------------|
| 名誉会長 | 清水潔 | (明治大学特任教授) |
| 名誉副会長 | 尾形武寿 | (公益財団法人日本財団理事長) |
| 名誉副会長 | 鳥原光憲 | (公益財団法人日本障がい者スポーツ協会会長) |
| 名誉副会長 | 村上芳則 | (国立大学法人筑波技術大学前学長) |
| 実行委員長 | 石野富志三郎 | (一般財団法人全日本ろうあ連盟理事長) |
| 実行委員 | 小中栄一 | (一般財団法人全日本ろうあ連盟副理事長) |
| 同上 | 長谷川芳弘 | (一般財団法人全日本ろうあ連盟副理事長) |
| 同上 | 星川安之 | (公益財団法人共用品推進機構専務理事) |
| 同上 | 石原保志 | (国立大学法人筑波技術大学副学長) |
| 同上 | 黒崎信幸 | (社会福祉法人全国手話研修センター理事長) |
| 同上 | 石川芳郎 | (一般社団法人全国手話通訳問題研究会会長) |
| 同上 | 坂本輝之 | (関東ろう連盟理事長) |
| 同上 | 宮本一郎 | (公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構理事長) |
| 同上 | 石井靖乃 | (公益財団法人日本財団ソーシャル イノベーション本部上席チームリーダー) |
| 同上 | 藤井克徳 | (日本障害フォーラム幹事会議長) |

(2) 準備室

| | | |
|----------|-------|---------------------------------------|
| 室長 | 久松三二 | (一般財団法人全日本ろうあ連盟常任理事・事務局長) |
| 全体アドバイザー | 浅和一雄 | (愛知万博日本政府館運営プロデューサー) |
| 準備室委員 | 中橋道紀 | (一般財団法人全日本ろうあ連盟理事) |
| 同上 | 松本正志 | (一般財団法人全日本ろうあ連盟理事) |
| 同上 | 小出真一郎 | (一般財団法人全日本ろうあ連盟理事) |
| 同上 | 熊谷徹 | (関東ろう連盟) |
| 同上 | 栗野達人 | (公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟会長) |
| 同上 | 宮澤典子 | (一般社団法人全国手話通訳問題研究会理事) |
| 同上 | 大杉豊 | (国立大学法人筑波技術大学教授) |
| 同上 | 原田潔 | (日本障害フォーラム事務局) |
| 同上 | 長谷川則之 | (関東ろう連盟) |

(4) 要員

関東ろう連盟、公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟、関東手話通訳問題研究会の協力により、要員本部（計 10 名）を編成し、要員協力の募集を行いました。3 日間で延べ 517 名の要員にご協力いただきました。

【要員本部】

部 長：熊谷徹

副 部 長：栗野達人

スタッフ：総合案内

桐原サキ

会場外

中西潤、越智大輔

感じるフロア

有山一博

学ぶフロア（ワークショップ）

増田伸也、春日幸三

学ぶフロア（カンファレンス）

荒井康善、大石欣也

打ち合わせ：2015 年 8 月 5 日（水）、9 月 10 日（木）、10 月 19 日（月）

11 月 5 日（木）、11 月 24 日（火）

2016 年 1 月 26 日（火）（いずれも本部事務所、18:30～20:30）

【要員説明会】

日 時：2015 年 11 月 28 日（土）18:00～20:00

場 所：東京都渋谷区地域交流センター新橋

【要員配置】

| 日 | 時間帯 | 要員数 (延べ人数) | 配置場所 |
|---------|-----|---------------|----------------|
| 11 日（金） | 午後 | 12 名 | 通路搬入、感じるフロアに配置 |
| | 夜間 | 12 名 | |
| 12 日（土） | 午前 | 103 名 | 各フロア他 7 か所に配置 |
| | 午後 | 104 名 | |
| | 夜間 | 49 名 | |
| 13 日（日） | 午前 | 99 名 | 各フロア他 7 か所に配置 |
| | 午後 | 103 名 | |
| | 夜間 | 35 名 | |

(5) 情報保障

①手話通訳

東京手話通訳等派遣センターに依頼をし、延べ 112 名の手話通訳者が派遣されました。一部の講演あるいは式典や役職員付きの手話通訳については、連盟の登録通訳者が対応しました。

<学ぶフロア>

学ぶフロアは、講師・パネラーの打ち合わせ時（ワークショップは開始の 30 分前、カンファレンスは開始の 60 分前から）から通訳者に入ってもらい、進行や内容の把握および、打ち合わせの際の手話通訳も兼ねる形としました。

| 日時 | 内容 | 待合時間 | 企画時間 | 人数 | 担当 |
|-------------|----------|-------|-------------|----|---------------|
| 12 日 (土) | 式典 | 9:30 | 10:00~11:10 | 2名 | 連盟 |
| | 特別講演 | 11:00 | 11:10~12:00 | 3名 | 派遣センター |
| | ワークショップ1 | 13:00 | 13:30~15:00 | | |
| | ワークショップ2 | 15:30 | 16:00~17:30 | 2名 | 連盟 |
| | シポジウム1 | 9:00 | 10:00~12:00 | 4名 | 派遣センター |
| | シポジウム2 | 12:00 | 13:00~14:30 | 4名 | 連盟2名・派遣センター2名 |
| | シポジウム3 | 14:30 | 15:30~17:30 | 4名 | 派遣センター |
| 13 日 (日) | ワークショップ3 | 9:30 | 10:00~11:30 | 3名 | 派遣センター |
| | ワークショップ4 | 12:00 | 12:30~14:00 | 2名 | 連盟1名・派遣センター1名 |
| | ワークショップ5 | 14:30 | 15:00~16:30 | 3名 | 派遣センター |
| | シポジウム4 | 9:00 | 10:00~11:30 | 4名 | 派遣センター |
| | シポジウム5 | 11:30 | 12:30~14:30 | 4名 | 連盟2名・派遣センター2名 |
| | シポジウム6 | 14:30 | 15:30~17:00 | 4名 | 連盟3名・派遣センター1名 |

<感じるフロア>

企業の出展ブースには、常時、企業からの通訳申し込みの人数の通訳者がいるようにした他、適宜交替ができるように、企業からの申し込みの2倍の手話通訳者を配置しました。また、総合案内、お国自慢コーナーにもそれぞれ手話通訳者を配置しました。

■日本財団・(株)ケー・シー・シー・国立研究開発法人情報通信研究機構

NHK放送技術研究所・Palabra株式会社・富士通SSL・鳥取県 以上7団体

| 日時 | 時間 | | 人数 |
|----------|-------------|-------------|-----|
| 12 日 (土) | 10:00~14:00 | 14:00~18:00 | 各2名 |
| 13 日 (日) | 10:00~13:00 | 13:00~15:00 | 各2名 |

■KDDI株式会社 (a u) 以上1団体

| 日時 | 時間 | | 人数 |
|----------|-------------|-------------|-----|
| 12 日 (土) | 10:00~14:00 | 14:00~18:00 | 各3名 |
| 13 日 (日) | 10:00~13:00 | 13:00~15:00 | 各2名 |

■お国自慢コーナー

| 日時 | 時間 | | 人数 |
|----------|-------------|-------------|-----|
| 12 日 (土) | 10:00~14:00 | 14:00~18:00 | 各4名 |
| 13 日 (日) | 10:00~13:00 | 13:00~15:00 | 各4名 |

■総合案内

| 日時 | 時間 | | 人数 |
|--------|-------------|-------------|-----|
| 12日(土) | 10:00~14:00 | 14:00~18:00 | 各1名 |
| 13日(日) | 10:00~13:00 | 13:00~15:00 | 各1名 |

②要約筆記通訳

東京手話通訳等派遣センターに依頼し、総合案内に常時1名と、カンファレンスの講師打合せに参加した難聴者のために要約筆記者を配置しました。

■総合案内

| 日時 | 時間 | | 人数 |
|--------|-------------|-------------|-----|
| 12日(土) | 10:00~14:00 | 14:00~18:00 | 各1名 |
| 13日(日) | 10:00~13:00 | 13:00~15:00 | 各1名 |

■カンファレンス講師打合せ

| 日時 | 時間 | 人数 |
|--------|-------------|----|
| 12日(土) | 12:00~13:00 | 2名 |

③盲ろう者通訳・介助員

東京都盲ろう者支援センターに依頼をし、ワークショップおよびカンファレンスで事前に希望があった盲ろう者に対し、情報保障者を準備しました。その他、各エリアに盲ろう者席を設けるなど、参加しやすい環境を整えました。しかし、盲ろう者のための情報保障手段と一般の情報保障手段を混同し、一般の参加者で間違えて情報保障の依頼をしてしまったケースもあり、参加申込書をわかりやすくすることも課題としてあげられました。

■カンファレンス

| | | | |
|--------|-------------|------|----|
| 12日(土) | 13:00~14:30 | 接近手話 | 2名 |
| 12日(土) | 13:00~14:30 | 触手話 | 1名 |
| 12日(土) | 15:30~17:00 | 触手話 | 1名 |

■ワークショップ

| | | | |
|--------|-------------|------|----|
| 12日(土) | 16:00~17:30 | 接近手話 | 1名 |
| 13日(日) | 12:30~14:00 | 接近手話 | 1名 |

④文字情報・情報保障機器

学ぶフロア(ワークショップ・カンファレンス)では、文字による情報保障を行い、大型スクリーンに投影しました。また、カンファレンスの場合は、会場の後方からでも手話通訳等がよく見えるよう、大型スクリーンに手話通訳・文字通訳・演者等を投影しました。文字による情報保障および機器の設営はS&C(Sign and Caption)に依頼しました。

⑤補聴システム

フォナック・ジャパン株式会社よりDSFシステムを借用し、学ぶフロア(ワークショップ・カンファレンス)に設置しました。ただし、補聴器着用者にとって磁気ループと同じ効果が得られたわけではなく、補聴システムの整備については今後の課題となりました。

⑥視覚障害者への情報保障

当日配布プログラムの点字版を発行しました。事前申し込み制でない場合の、視覚障害者への情報保障(資料点字版等の作成等)は今後の課題です。

(6) 広報

印刷物や公式ホームページ、SNSを使つての情報発信や、秋葉原駅や電気街振興会などへの協力の依頼、新聞や関係誌への周知の依頼などを行いました。

<印刷物>

■ポスター

A2判ポスターを1,000部作成して、関係機関などに広く掲示を依頼しました。作成にあたっては、次世代を担う若い若者らに情報アクセシビリティへの思いを描いてもらいたく、筑波技術大学の学生を対象にデザインコンペを2015年6月～7月に行い、産業技術学部総合デザイン学科の仲田早織さん・湯浅友美子さんの作品が採用されました。フォーラムのテーマである「情報アクセシビリティ」と「音をつかむ未来をつかむ」をイメージしたデザインになっています。

■告知チラシ

A4判5,000部のチラシを2回作成し、全国ろうあ者大会や各種集会に配布し、フォーラムを開催することの告知を図りました。

■最終版チラシ

A3判二つ折りのチラシ40,000部を作成して広く配布しました。

3つの会場を色分けし、3人のマスコットキャラクターを配置し、見やすさを工夫しました。ポスターのデザインを一部活用し、またチラシ自体が招待券も兼ねるものとなりました。

■当日プログラム

A3判四つ折りのプログラムを10,000部作成し、来場者に配付しました。

チラシと同じく、会場の色分けとキャラクターの配置をし、ポスターデザインも活用しました。

当日行われたクイズラリーや、同時開催の手話言語法・条例特別展の情報も掲載しました。

■加盟団体・関係団体向けのニュース

A4判のニュースを2回発行しました。

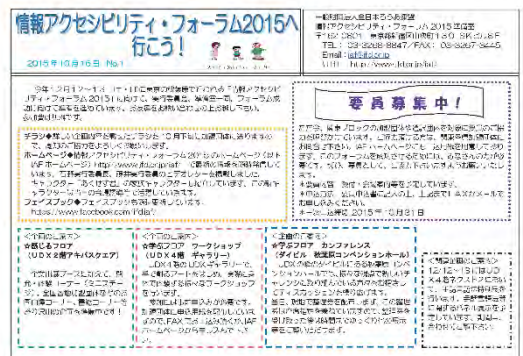
最終版チラシ



告知チラシ



加盟団体・関係団体向けニュース



<広報活動>

■秋葉原電気街振興会への協力依頼

秋葉原にある150ほどの店舗が参加する「秋葉原電気街振興会」に、フォーラムの広報についてご協力をいただき、「秋葉原ホームページ <http://akiba.or.jp/>」に紹介いただくとともに、会員店舗にポスターを掲示していただきました。また来場者への対応などの配慮をお願いしました。

秋葉原電気街振興会のホームページより

情報アクセシビリティ・フォーラム2015
12月12日(土)・13日(日)開催

近年、障害者権利条約で最も重要な用語として「アクセシビリティ」が重要です。とりわけ、聴覚障害者の情報アクセスは視覚からの情報が非常に重要ですが、聴覚障害者が抱えているバリアが目に見えないだけに、市民の十分な理解を得るに至っていません。情報アクセスが容易になることは聴覚障害者のみならず、他の障害者や健常者に対しても大変効果的です。アクセシビリティの理念と、現在の聴覚障害者を取り巻く情報アクセシビリティの動向を市民に広めるため、「情報アクセシビリティ・フォーラム」開催し、情報アクセシビリティが確保された社会の広がりを促していきます。

【日時】2015年12月12日(土)・13日(日)
【会場】秋葉原UDXほか
【主催】一般財団法人全日本ろうあ連盟
【助成】公益財団法人日本財団
【特別協力】国立大学法人筑波技術大学

■情報アクセシビリティ・フォーラム2015Webサイト
<http://www.jfd.or.jp/iaf/>
■リーフレット [こちらからダウンロードしてください。](#)

電気街の店舗に貼られたポスター



■プレスリリース

12月4日および9日に、フォーラム開催のお知らせ(取材のお願い)と、「妃殿下並びに内親王殿下のご臨席」に関するプレスリリースを、36社に対して行いました。

12月12日開催の式典には15社の取材があり、フォーラム全体については延べ6社の取材がありました。

■フォーラム公式ホームページ (<http://www.jfd.or.jp/iaf/>)

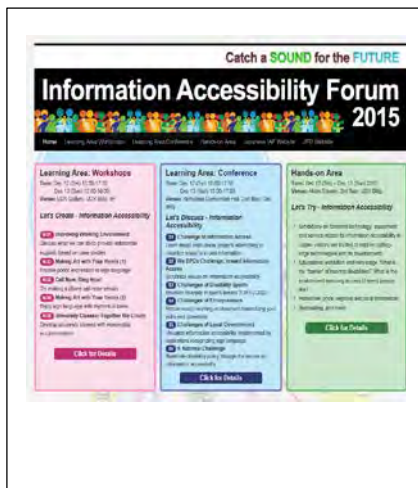
Facebook (<https://www.facebook.com/jfd.iaf/>)

実行委員・関係者の挨拶(動画・文字)や、開催関連情報を発信しました。また、視覚障害者のアクセスのために音声読み上げをつけました。

公式ホームページ(日本語)

公式ホームページ(英語)

公式 Facebook



<会場周辺（駅・レストラン）への協力依頼（コミュニケーションボードの配布）>

■秋葉原周辺の駅への周知と協力依頼

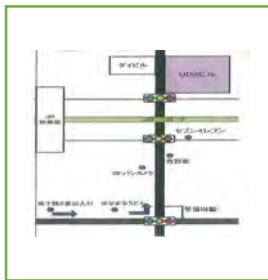
J R秋葉原駅、東京メトロ日比谷線秋葉原駅・銀座線末広町駅、つくばエクスプレス秋葉原駅、都営地下鉄岩本町駅に「コミュニケーション支援ボード」を配布し、フォーラム開催中の来場者への対応をお願いしました。特にJ R秋葉原駅では、駅構内に案内表示をしていただき、日比谷線秋葉原駅では会場までの地図の用意をしていただきました。

J R秋葉原駅構内の様子

交通機関用「コミュニケーション支援ボード」



日比谷線秋葉原駅作成の地図



■周辺レストラン等への周知と協力依頼

UD Xアキバ I C H I 店長会を通しては周辺レストランに店舗用のコミュニケーション支援ボードを 100 枚配布しました。またフォーラム参加者に利用者用のコミュニケーションボードを配布し、活用していただきました。

利用者用コミュニケーションボード

店舗用コミュニケーション支援ボード

利用の様子



7. 広報記事 (新聞・テレビ・雑誌等)

■新聞

福祉新聞 20151221

福祉新聞 20151123



読売新聞 2015年11月30日付

◇「情報アクセシビリティ・フォーラム」 12月12日、13日ともに午前10時から、東京都千代田区の秋葉原UDXなど。耳の不自由な人が情報を入手できる社会を考えるため、その不自由さがわかるパネルや、声を文字に変換する機器などを展示する。入場無料。問い合わせは全日本ろうあ連盟に電話(03・3268・8847)がファクス(03・3267・3445)。

◇「JVC国際協力コンサート」 12月12日午後3時、東京都世田谷区の昭和女子大人見記念講堂。パッパの「クリスマス・オラトリオ」などを演奏。収益は、海外の紛争地での支援活動や、東日本大震災被災地の復興に活用される。S席1万円、A席5000円、B席4000円、C席3000円。問い合わせは、主催の日本国際ボランティアセンター(03・3836・4108)へ。

日本聴力障害新聞
2015年10月1日号

2016年2月1日号

日本聴力障害新聞 2016年2月1日号

円滑に入手するために IAF 2015 開催
考え、学び合った

「誰もがわかる」情報共有の場、聴覚障害者も参加できる。全日本ろうあ連盟主催の「情報アクセシビリティフォーラム2015」が、12月12日、13日の両日、東京都千代田区の秋葉原UDXで開催された。約200名が参加し、デジタル情報へのアクセスを改善するための様々な取り組みが紹介された。

「誰もがわかる」情報共有の場、聴覚障害者も参加できる。全日本ろうあ連盟主催の「情報アクセシビリティフォーラム2015」が、12月12日、13日の両日、東京都千代田区の秋葉原UDXで開催された。約200名が参加し、デジタル情報へのアクセスを改善するための様々な取り組みが紹介された。

「誰もがわかる」情報共有の場、聴覚障害者も参加できる。全日本ろうあ連盟主催の「情報アクセシビリティフォーラム2015」が、12月12日、13日の両日、東京都千代田区の秋葉原UDXで開催された。約200名が参加し、デジタル情報へのアクセスを改善するための様々な取り組みが紹介された。

日本聴力障害新聞 2015年10月1日号

「情報アクセシビリティ」とは何か?

全日本ろうあ連盟は今年12月に秋葉原コンベンションホールで開催し、2日間の情報アクセシビリティフォーラム(IAF)を開催しました。参加者2万人が目を惹き、前日同時、学芸フロア、感じるフロアでの展示を行いました。今回は、聴覚障害者の「学芸フロア」カンファレンスの内容を紹介します(当日までに要約の可能性があります)。

「情報アクセシビリティ」とは何か?

「情報アクセシビリティ」とは、障害のある人がデジタル情報にアクセスし、活用できるようにするための取り組みのことです。具体的には、視覚障害者が音声読み上げソフトを利用したり、聴覚障害者が字幕や手話を利用したりすることです。

「情報アクセシビリティ」の重要性

デジタル情報は、私たちの生活に欠かせない存在です。しかし、障害のある人は、デジタル情報にアクセスすることが困難です。これは、社会参加の障壁となり、生活の質を低下させます。したがって、デジタル情報へのアクセスを改善することは、社会参加の促進に不可欠です。

「情報アクセシビリティ」の取り組み

全日本ろうあ連盟は、デジタル情報へのアクセスを改善するための様々な取り組みを行っています。具体的には、デジタル情報へのアクセスを改善するための様々な取り組みを行っています。具体的には、デジタル情報へのアクセスを改善するための様々な取り組みを行っています。

日本聴力障害新聞 2016年2月1日号

「音のつがひ 未来をつがひ」
情報アクセシビリティフォーラム2015大成功!

2015年12月12日、13日、秋葉原UDXで開催された「情報アクセシビリティフォーラム2015」は大成功を収めました。約200名が参加し、デジタル情報へのアクセスを改善するための様々な取り組みが紹介されました。

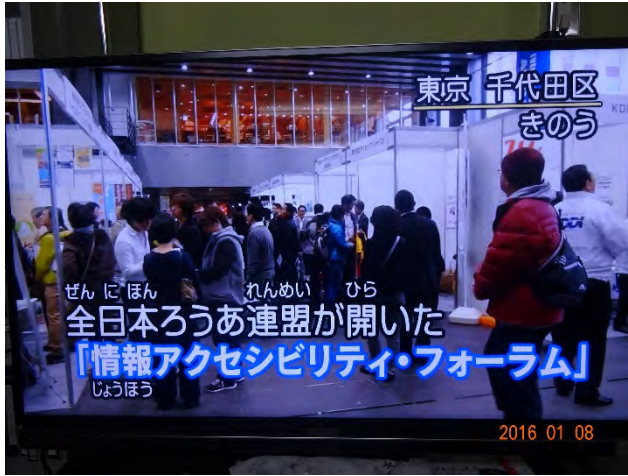
「音のつがひ 未来をつがひ」
情報アクセシビリティフォーラム2015大成功!

2015年12月12日、13日、秋葉原UDXで開催された「情報アクセシビリティフォーラム2015」は大成功を収めました。約200名が参加し、デジタル情報へのアクセスを改善するための様々な取り組みが紹介されました。

■ テレビ

NHK手話ニュース 8.45

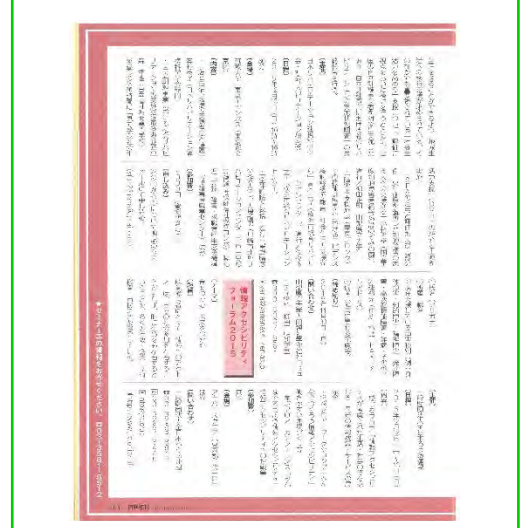
テレビ朝日



■ 雑誌

リベラルタイム Feb.2016

月刊福祉 December2015 全社協刊



月刊ノーマライゼーション 2015年11月号



8. 成果と課題、そしてこれから

情報アクセシビリティ・フォーラム 2015 準備室長

久松 三二

(一般財団法人 全日本ろうあ連盟 事務局長)

2年ぶり2回目の開催となった今回の「情報アクセシビリティ・フォーラム 2015」には2日間で約10,000人の皆様にご来場いただきました。

今回の「情報アクセシビリティ・フォーラム 2015」では、来場いただいたすべての人々が、前回開催したフォーラム以上に、情報に容易にアクセスできるよう、手話通訳やPC文字通訳、フォナックDSFシステムの設置といった聴覚障害に関する情報保障に加え、ホームページのアクセシビリティの配慮や当日プログラムの点字版作製、盲ろう者への通訳手配等を行いました。

また今回はろう者だけでなく、難聴者・中途失聴者や盲ろう者、視覚障害者の皆さんにも「学ぶフロア」のパネリストや実行委員会委員としてこの事業に参画いただきました。その過程で、他の障害の皆さんにも「より簡便に」情報にアクセスしてもらうことやそれを常に意識することの大切さを改めて学んだように感じます。その一方で、情報保障に関わる人的資源の不足や意思疎通支援事業について課題が多く、今後も取り組んでいくことの必要性を痛感しました。

障害者の移動や情報に対するアクセスは、施設・輸送等のハード面だけではなく、人的な支援が不可欠です。ソフト・ハードの両面をどちらか一方だけを優先させるのではなく、車の両輪のように共に充実させていかなければなりません。

障害のある人が、自分の望む形での情報アクセスへの支援や移動支援を自由に受けられ、あらゆるイベントに気軽に参加ができるようにするためにも、社会のあらゆる分野に「情報アクセシビリティ」の概念を浸透させていくことが今後の課題となります。

東京オリンピック・パラリンピックを4年後に控え、これから日本では様々な情報インフラが開発・実用化されてくると考えられます。そのインフラを利用する立場として、開発の場に障害当事者が参画することが重要になります。また、その参画をより有効に活かすためにも、「情報アクセシビリティの向上」といった基礎的環境の整備が必要です。

障害者の社会参加を促進するためにも、多くの方々の理解を得ることが、何より大きな力となります。今回の「情報アクセシビリティ・フォーラム 2015」を契機に、社会の中に「情報アクセシビリティ」という概念がこれまで以上に根付いていくよう、取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、今回のフォーラム開催にあたっては、ご後援・ご助成頂いた団体をはじめ、聴覚障害者のアクセシビリティを支える関係団体、全国各地のろうあ団体・手話関係団体、とりわけ関東地域の多くの皆様に多大なご協力を頂きましたことに、心よりお礼を申し上げます。



「情報アクセシビリティ・フォーラム 2015」は
公益財団法人日本財団の助成を受けています。

情報アクセシビリティ・フォーラム 2015 事業報告書

発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟
(本部事務所) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 130 SK ビル 8 階
電話：03-3268-8847 FAX：03-3267-3445
<http://www.jfd.or.jp/>

2016 年 3 月発行

※本書の無断転載および複製・コピーは禁じます。乱丁・落丁はお取りかえいたします。

